Canon

EOS Kiss X9i

カメラ
Wi-Fi（無線通信）機能

使用説明書（基本編）

使用説明書（PDF ファイル）およびソフトウェアは、キヤノンのホームページからダウンロードすることができます（p.4、163）。

J

Canon

EOS Kiss X9i

カメラ使用説明書（基本編）

カメラ使用説明書（基本編）では、簡単な撮影ができるまでの基本的な
操作方法や機能を説明しています。

はじめに

EOS Kiss X9iは、有効画素数約2420万画素・高精細CMOSセンサー、DIGIC 7、高精度・高速45点AF（クロス測距点：最大45点）、最高約6.0コマ/秒連続撮影、ライブビュー撮影、フルハイビジョン（Full HD）動画撮影機能、Wi-Fi/NFC/Bluetooth（無線通信）機能を搭載した、デジタル一眼レフカメラです。

はじめに必ずお読みください

撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、はじめに『安全上のご注意』（15～17ページ）、および『取り扱い上のご注意』（18～20ページ）をお読みください。また、本書をよく読んで正しくお使いください。

操作しながら本書を参照すると理解が深まります

本書を読みながら実際に撮影し、その結果を確認しながら理解を深め、操作に慣れてください。また、必要なときに確認できるように本書を大切に保管してください。

試し撮りと撮影内容の補償について

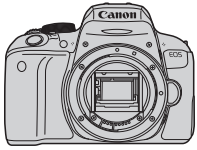
撮影後は画像を再生して、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一、カメラ（本機）やメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの画像の取り込みができなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。

著作権について

あなたがカメラ（本機）で記録した画像やメモリーカードに取り込んだ音楽および音楽付き画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

カメラと主な付属品

ご使用前に、以下のものがすべてそろっているかご確認ください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。



カメラ
（アイカップ、ボディキャップ付き）

ストラップ

電池
バッテリーパック
LP-E17
（保護カバー付き）

充電器
バッテリーチャージャー
LC-E17

- **ソフトウェアCD-ROM、インターフェースケーブル、HDMIケーブルは付属していません。**
- 使用説明書については、次ページを参照してください。
- レンズキットをお買い求めのときは、レンズが付属しているか確認してください。
- 付属品は、なくさないように注意してください。

レンズの使用説明書が必要なときは、キヤノンのホームページからダウンロードしてください（p.4）。
なお、レンズの使用説明書（PDF）は、レンズ単体販売用ですので、レンズキットをご購入いただいた場合、レンズに付属するアクセサリーが、レンズ使用説明書の記載と一部異なることがあります。ご了承ください。

ソフトウェアは、キヤノンのホームページ（canon.jp/eos-sw）からダウンロードしてお使いください（p.163）。

使用説明書について

カメラ・Wi-Fi（無線通信）機能 使用説明書（基本編）
冊子は、「基本編」です。より詳しい使用説明書（PDFファイル）は、キヤノンのホームページからダウンロードすることができます。

使用説明書（PDFファイル）のダウンロードと見かた

1 使用説明書（PDFファイル）をダウンロードする

- インターネットに接続し、キヤノンの下記のWebサイトにアクセスしてください。
  - **・カメラ使用説明書**
  - **・Wi-Fi（無線通信）機能 使用説明書**
  - **・カメラ・Wi-Fi（無線通信）機能 使用説明書（基本編）**
    ➡ canon.jp/eos-manual
  - **・レンズ使用説明書**
    ➡ canon.jp/lens-acc-manual
  - **・ソフトウェア使用説明書**
    ➡ canon.jp/eos-sw-manual

2 使用説明書（PDFファイル）を見る

- ダウンロードした使用説明書（PDFファイル）をダブルクリックすると、ファイルが開きます。
- 使用説明書（PDFファイル）を見るためには、Adobe Acrobat Reader DCなどのAdobe社製PDF閲覧用ソフトウェア（最新版推奨）が必要です。
- Adobe Acrobat Reader DCはインターネット上から無料でダウンロードできます。
- PDF閲覧用ソフトウェアの使い方については、そのソフトウェアのヘルプなどを参照してください。

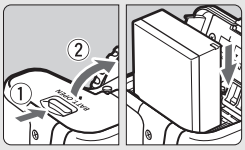
QRコードから、使用説明書（PDFファイル）をダウンロードすることもできます。

www.canon.com/icpd

- QRコードの読み取りには、アプリケーションが必要です。
- お住まいの国/地域を選択し、使用説明書をダウンロードします。
- QRコードは、［**4：使用説明書・ソフトウェア URL**］で表示することもできます。

すぐ撮影するには

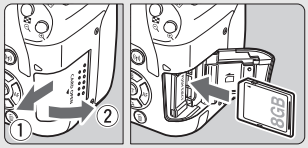
1



電池（バッテリー）を入れる（p.32）

●購入時は電池を充電してからお使いください（p.30）。

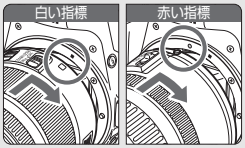
2



カードを入れる（p.33）

●カードの表を、カメラの背面側にして差し込みます。

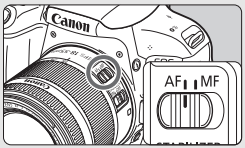
3



レンズを取り付ける（p.42）

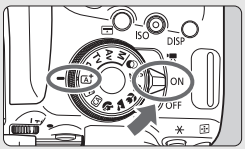
●レンズの取り付け指標（白または赤）とカメラ側の取り付け指標の色を合わせて取り付けます。

4



レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする（p.42）

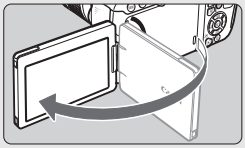
5



電源スイッチを〈ON〉にし、〈🅰+〉（シーンインテリジェントオート）にする（p.66）

●撮影に必要な設定がすべて自動設定されます。

6



液晶モニターを開いてセットする（p.35）

●液晶モニターに日付/時刻/エリアの設定画面が表示されたときは、38ページを参照してください。

7

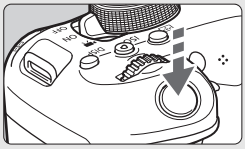
ピントを合わせる（p.45）

●ファインダーをのぞき、写したいものを画面中央に配置します。

●シャッターボタンを軽く押すと、ピントが合います。

●必要に応じて内蔵ストロボが上がります。

8



撮影する（p.45）

●さらにシャッターボタンを押して撮影します。

9

撮影した画像を確認する

●撮影した画像が液晶モニターに約2秒間表示されます。

●〈▶〉ボタンを押すと、もう一度画像が表示されます（p.90）。

- 液晶モニターを見ながら撮影するときは、『ライブビュー撮影』（p.127）を参照してください。
- 今までに撮影した画像を確認したいときは、『画像を再生する』（p.90）を参照してください。
- 撮影した画像を消去したいときは、『消去する』（p.160）を参照してください。

使用できるカードについて

カードの容量に関係なく、下記のカードが使用できます。**なお、新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください**（p.61）。

- SD/SDHC*/SDXC*メモリーカード

  * UHS-I対応

動画が記録できるカードについて

動画を撮影するときは、書き込み/読み取り速度が下表のスピードクラス以上で、大容量のカードを使用してください。

動画記録画質（p.146）		記録形式	
		MOV	MP4
ALL-I*		UHSスピードクラス3以上	−
IPB（標準）	FHD：59.94P 50.00P	−	SDスピードクラス10以上
	上記以外	−	SDスピードクラス6以上
IPB（軽量）		−	SDスピードクラス4以上

* タイムラプス動画撮影時に自動設定される記録画質です。

- 動画撮影時に書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に記録できないことがあります。また、動画再生時に読み取り速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に再生できないことがあります。
- カードの書き込み / 読み取り速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。

本書では、SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードのことを「カード」と表記しています。
※ 画像を記録する**カードは付属していません**。別途ご購入ください。

章目次

	はじめに	2
1	撮影前の準備と操作の基本	29
2	かんたん撮影と画像確認	65
3	AF／ドライブの設定	93
4	画像に関する設定	105
5	撮影目的にあわせた応用撮影	117
6	液晶モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影）	127
7	動画を撮影する	143
8	知っていると便利な機能	149
9	画像の再生	153
10	ソフトウェアスタートガイド／パソコンに画像を取り込む	161

本使用説明書の表記について

本文中の絵文字について

〈 〉　：電子ダイヤルを示しています。

〈▲〉〈▼〉〈◀〉〈▶〉　：〈✣〉十字キーの上下左右ボタンを示しています。

〈(SET)〉　：設定ボタンを示しています。

⏱4／⏱6／⏱10／⏱16　：操作ボタンから指を離したあとに、ボタンを押した状態がそれぞれ約4秒／6秒／10秒／16秒間保持されることを示しています。

* その他、本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンや液晶モニターの表示など、カメラで使われている絵文字を使用しています。

MENU　：〈MENU〉ボタンを押して設定変更する機能であることを示しています。

応用　：ページタイトル右の **応用** は、応用撮影ゾーン（p.25）限定で使用できる機能であることを示しています。

（p.＊＊）：参照ページを示しています。

：撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。

：補足説明や補足事項を記載しています。

：上手に使うためのヒントや撮影のポイントを記載しています。

?　：困ったときの手助けになる事項を記載しています。

操作説明の前提と作例写真について

- 電源スイッチが〈ON〉になっていることを前提に説明しています（p.36）。
- メニュー機能やカスタム機能などが初期状態になっていることを前提に説明しています。
- 本文中のイラストは、EF-S18-55mm F4-5.6 IS STMレンズを取り付けた状態で説明しています。
- カメラに表示される作例写真や、本書で使用している作例写真は、効果を分かりやすく伝えるためのイメージです。

目　次

はじめに　2

カメラと主な付属品 3
使用説明書について 4
すぐ撮影するには 6
使用できるカードについて 8
章目次 9
本使用説明書の表記について 10
安全上のご注意 15
取り扱い上のご注意 18
各部の名称 21

1　撮影前の準備と操作の基本　29

電池を充電する 30
電池を入れる／取り出す 32
カードを入れる／取り出す 33
液晶モニターを使う 35
電源を入れる 36
日付／時刻／エリアを設定する 38
表示言語を選ぶ 41
レンズを取り付ける／取り外す 42
撮影の基本操作 44
画面の表示レベルを設定する 46
Q 撮影機能のクイック設定 52
MENU メニュー機能の操作と設定 54
画面にタッチして操作する 58
カードを初期化する 61
液晶モニターの表示切り換え 62
水準器を表示する 63

2 かんたん撮影と画像確認 65

全自動で撮る（シーンインテリジェントオート）....66
全自動を使いこなす（シーンインテリジェントオート）....69
ストロボが使えない場所で写す....70
クリエイティブオートで撮る....71
人物を写す....72
風景を写す....73
花や小物を大きく写す....74
動きのあるものを写す....75
SCN: スペシャルシーンモードで撮る....76
集合写真を写す....77
子供を写す....78
料理を写す....79
キャンドルライトと人物を写す....80
夜景と人物を写す（三脚を使う）....81
夜景を写す（手持ち撮影）....82
逆光シーンを写す....83
フィルター効果を付けて撮影する....84
クイック設定について....86
明るさを調整する....89
画像を再生する....90

3 AF／ドライブの設定 93

AF: ピント合わせの動作を変える（AF 動作）....94
測距エリアと AF フレームを選択する....96
測距エリア選択モードの内容....99
MF: 手動でピントを合わせる（マニュアルフォーカス）....101
ドライブモードの選択....102
セルフタイマー撮影....103

4 画像に関する設定 105

記録画質を設定する 106
ISO: 静止画の ISO 感度を設定する 108
ピクチャースタイルを選択する 109
WB: 明かりにあわせて撮影する（ホワイトバランス） 111
明るさ・コントラストを自動補正する（オートライティングオプティマイザ） ... 112
ノイズ低減機能を設定する 113
フリッカーの影響を低減する 115

5 撮影目的にあわせた応用撮影 117

P: プログラム AE 撮影（プログラム AE） 118
Tv: 被写体の動きを表現する（シャッター優先 AE） 119
Av: ピントの合う範囲を変える（絞り優先 AE） 120
M: 露出を自分で決めて撮る（マニュアル露出） 121
自分の好みに明るさを調整する（露出補正） 122
明るさを自動的に変えて撮る（AEB 撮影） 123
明るさを固定して撮る（AE ロック撮影） 124
内蔵ストロボを使って撮る 125

6 液晶モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影） 127

液晶モニターを見ながら撮影する 128
フィルター効果を付けて撮影する 131
ピント合わせの動作を変える（AF 動作） 133
AF でピントを合わせる（AF 方式） 136
タッチシャッターで撮影する 141

7 動画を撮影する 143

動画を撮影する 144
　自動露出で撮影する 144
動画記録サイズの設定 146

8 知っていると便利な機能 149

普段使う上で便利な機能 150
電子音が鳴らないようにする 150
カードの入れ忘れを防止する 150
撮影直後の画像表示時間を設定する 151
電源が切れるまでの時間を設定する／オートパワーオフ 151
カメラの機能設定を初期状態に戻す 152

9 画像の再生 153

▶ 見たい画像を素早く探す 154
画面にタッチして再生する 156
動画を再生する 158
消去する 160

10 ソフトウェアスタートガイド／パソコンに画像を取り込む 161

ソフトウェアスタートガイド 162
ソフトウェア使用説明書（PDF ファイル）のダウンロードと見かた ... 164
パソコンに画像を取り込む 165
索 引 173

故障かなと思ったときや、主な仕様は、Webからダウンロードできる使用説明書を参照してください。ダウンロード方法は、4ページを参照してください。

認証マークについて
［**4：認証マーク表示**］を選び〈(SET)〉を押すと、このカメラが対応している認証マークの一部を確認できます。また、その他の認証マークは、本書やカメラ本体、カメラが入っていた箱にも表記されています。

安全上のご注意

下記注意事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解してから製品を正しく安全にお使いください。
故障、不具合、破損の際は、別紙の修理お問合せ専用窓口または、お買い上げ販売店にご連絡ください。

⚠警告 下記の注意を守らないと、死亡または重傷を負う可能性が想定されます。

- 発火、発熱、液漏れ、破裂、感電の原因となりますので次のことはしないでください。
  - 指定以外の電池、電源、付属品、変形または改造した電池、破損した製品の使用。
  - 電池のショート、分解、変形、加熱、はんだ付け、火中、水中投入、強い衝撃を与えること。
  - 電池の＋－を逆に入れること。
  - 充電（使用）可能温度範囲外での電池の充電。または、指定の充電時間を超える充電。
  - カメラ本体、付属品、接続ケーブル等の接点部に金属を差し込むこと。
- 電池を廃却する時は、接点にテープなどを貼り、絶縁してください。他の金属や電池と混じると発火、破裂の原因となります。
- 電池の充電中、電池が熱くなる、煙が出る、焦げ臭い等、異常状態が起こった場合、直ちに充電器のプラグをコンセントから抜いて充電をやめてください。火災、発熱、感電の原因になります。
- 液漏れ、変色、変形、煙が出る、焦げ臭いなどの異常時は、火傷に十分注意して速やかに電池を抜いてください。そのまま使用すると火災、感電、火傷の原因となります。
- 電池の液が目に入ったり、肌や衣服に付着しないように注意してください。失明や皮膚の障害を起こす恐れがあります。万一、液が目に入ったり肌や衣服についたときは、こすらずにすぐきれいな水で洗った後、ただちに医師の治療を受けてください。
- 電源コードを熱器具に近づけないでください。外装が変形したり、コードの被覆が溶けて、火災、感電の原因となります。
- 長時間、身体の同じ箇所に触れたまま使用しないでください。熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因になる恐れがあります。気温の高い場所で使用する場合や、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使用する場合は、三脚などをお使いください。
- 車の運転者等にむけてストロボを発光しないでください。事故の原因となります。
- カメラ及び付属品を使用しないときは、電源プラグ及び電池、接続ケーブルを外して保管してください。感電、発熱、発火、汚損の原因となることがあります。

- 可燃性ガスの雰囲気中で使用しないでください。爆発、火災の原因となります。
- 落下等により機器内部が露出した際は、露出部に手を触れないでください。感電の危険があります。
- 分解、改造しないでください。内部には高電圧部があり感電の危険があります。
- カメラで、太陽や強い光源を直接見ないようにしてください。視力障害の原因となります。
- 製品はお子様や幼児の手の届かないところで使用、保管してください。誤ってストラップや電源コードを首に巻きつけて窒息したり、感電、けがの原因になります。また、カメラやアクセサリーの部品を誤って飲み込むと、窒息したり、けがの原因になります。万一飲み込んだ際は、直ちに医師に相談してください。
- 湿気、油煙やほこりの多い場所で使用、保管しないでください。また、電池は、ショートを防ぐため、金属類と一緒の保管を避け、付属の保護カバーを取り付けて保管してください。火災、発熱、感電、火傷の原因となります。
- 飛行機内、病院で使用の際は、航空会社、病院の指示に従ってください。本機器が出す電磁波が計器や医療機器などに影響を与える恐れがあります。
- 火災や感電の原因となることがありますので次のことに注意してください。
  - 電源プラグは確実に奥まで差し込んでください。
  - 濡れた手で電源プラグにさわらないでください。
  - 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。
  - 電源コードを傷つけたり、無理に曲げたり、重いものを載せたりしないでください。また、束ねたり、結んだりして使用しないでください。
  - 二股ソケット等を使ったタコ足配線をしないでください。
  - 断線や被覆のはがれたコードは使用しないでください。
- 電源プラグを定期的に抜き、その周辺およびコンセントに溜まったほこりや汚れを、乾いた布で拭き取ってください。ほこり、湿気、油煙の多いところで、電源プラグを長期間差したままにすると、その周辺に溜まったほこりが湿気を吸って絶縁不良となり、火災の原因になります。
- 電池をコンセントや車のシガーライターソケットなどに直接接続しないでください。電池の液漏れ、発熱、破裂により火災、火傷、けがの原因となります。
- お子様が使用の時は、保護者が正しい使用方法を充分に教えてください。また、使用中にもご注意ください。感電、けがの原因となります。
- レンズやレンズをつけた一眼レフカメラを、レンズキャップを外したまま日光の下に放置しないでください。太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。
- 製品を布でおおったり、包んだりして使用しないでください。熱がこもり外装が変形し、火災の原因となることがあります。
- 製品を水に濡らさないでください。万一水に落としたり、内部に水または金属等の異物が入った際は、速やかに電池を抜いてください。火災、感電、火傷の原因となることがあります。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を製品の清掃に使用しないでください。火災や健康障害の原因となることがあります。

⚠ 注意 下記の注意を守らないと、けがを負う可能性または物的損害の発生が想定されます。

- 直射日光下の車中など、高温の場所で使用、保管しないでください。製品自体が高温になり、触ると火傷の原因になることがあります。また、電池の液漏れ、破裂など、製品の性能や寿命を低下させる原因になることがあります。
- カメラを三脚につけたまま移動しないでください。けがや事故の原因となることがあります。また、三脚はカメラ、レンズに対して十分に強度のあるものをご使用ください。
- 製品を低温状態に放置しないでください。製品自体が低温になり、触れるとけがの原因となることがあります。
- ストロボを目に近付けて発光しないでください。目をいためる恐れがあります。

取り扱い上のご注意

カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに別紙の修理お問合せ専用窓口にご相談ください。また、水滴が付いたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布でよくふき取ってください。
- カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気が発生する装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因になることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。
- 指などで内蔵ストロボやミラーの動作を阻害しないでください。故障の原因になります。
- レンズ、ファインダー、ミラー、フォーカシングスクリーンなどにゴミが付いているときは、市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは、有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、別紙の修理お問合せ専用窓口にご相談ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因になることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。

- 結露が発生したときは、故障の原因になりますので、カメラを使用しないでください。レンズ、カード、電池をカメラから取り外し、水滴が消えるまで待ってから、カメラを使用してください。
- カメラを長期間使用しないときは、カメラから電池を取り出し、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として、実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。
- 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を別紙の修理お問合せ専用窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。
- 連続撮影を長時間繰り返したり、ライブビュー撮影や動画撮影を長時間行うと、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありません。
- 明るい光源が撮影画面の内側や外側近くにあると、ゴーストが写り込むことがあります。

液晶モニターについて

- 液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤などの点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。
- 液晶モニターを長時間点灯したままにすると、表示していた内容の像が残ることがあります。この残像は一時的なもので、カメラを数日間使用しないでおくと自然に消えます。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

カードについて

カードとその中に記録されているデータを保護するために、次の点に注意してください。

- 「落とさない」、「曲げない」、「強い力や衝撃、振動を加えない」、「濡らさない」。
- カードの接点に指や金属が触れないようにする。
- カード表面にシールなどを貼らない。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや、静電気の発生しやすいところで保管、使用しない。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しない。
- ケースなどに入れて保管する。
- 温度の高いところ、ほこりや湿気の多いところに保管しない。

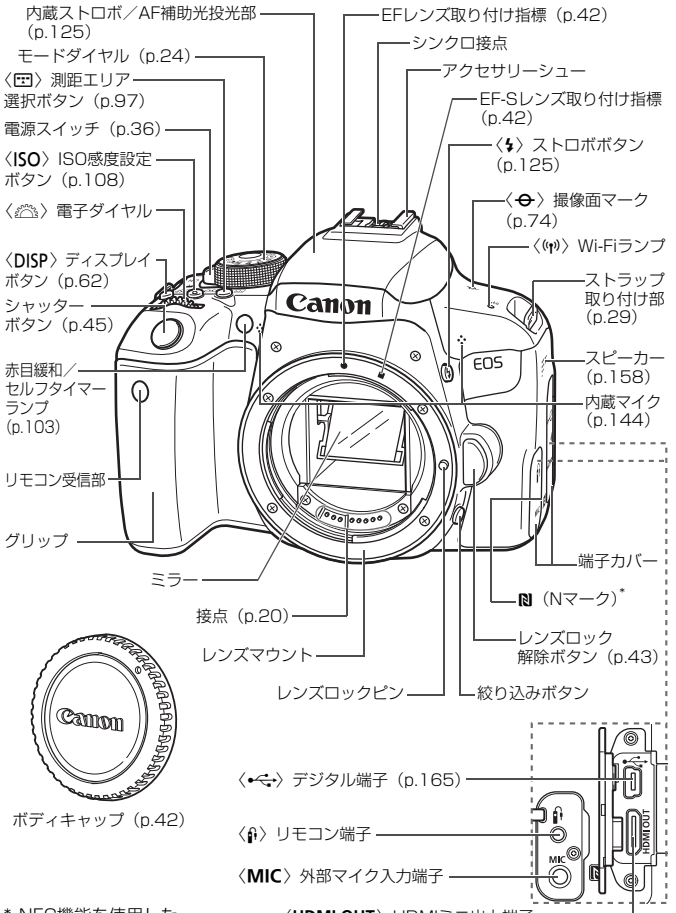
撮像素子の前面に付着する汚れについて

撮像素子の前面には、外部から入り込むゴミのほかに、ごくまれにカメラ内部の潤滑剤などが付着することがあります。汚れが画像に写り込むときは、できるだけ別紙の修理お問合せ専用窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

レンズについて

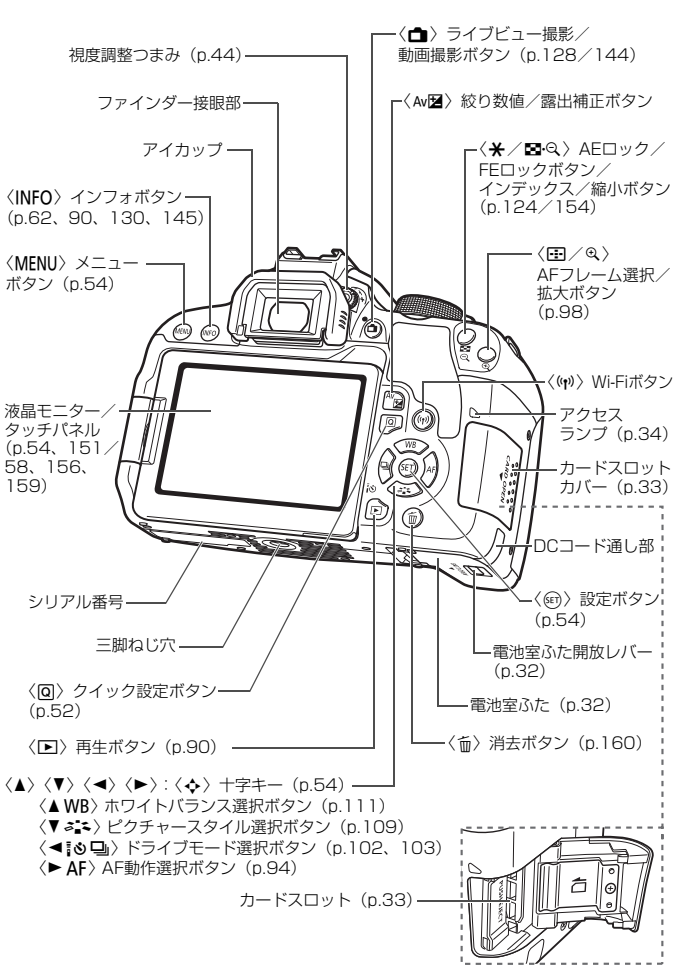
レンズを取り外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。

各部の名称

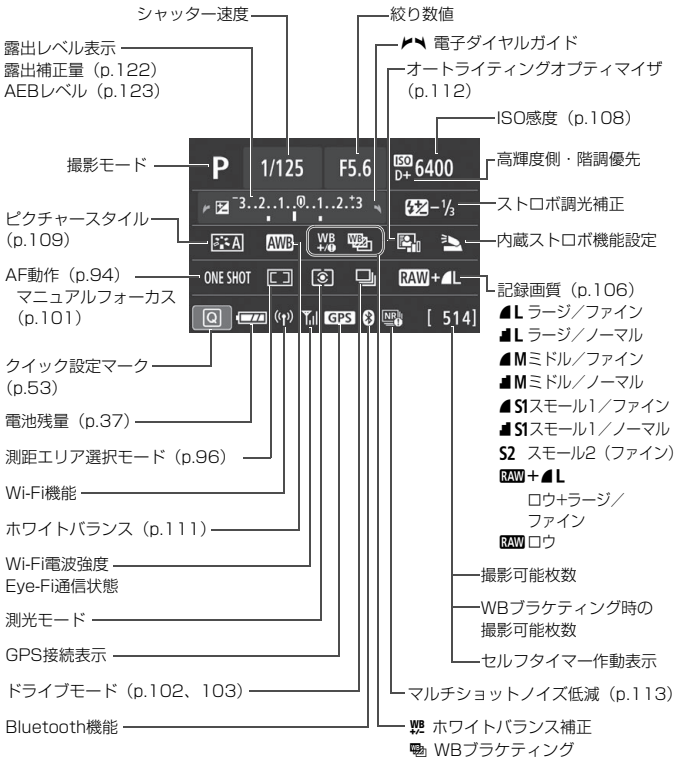


ボディキャップ（p.42）

* NFC機能を使用したWi-Fi接続時に使います。


視度調整つまみ（p.44）
ファインダー接眼部
アイカップ
〈INFO〉インフォボタン（p.62、90、130、145）
〈MENU〉メニューボタン（p.54）
液晶モニター／タッチパネル（p.54、151／58、156、159）
シリアル番号
三脚ねじ穴
〈Q〉クイック設定ボタン（p.52）
〈▶〉再生ボタン（p.90）
〈▲〉〈▼〉〈◀〉〈▶〉:〈✣〉十字キー（p.54）
〈▲WB〉ホワイトバランス選択ボタン（p.111）
〈▼〉ピクチャースタイル選択ボタン（p.109）
〈◀〉ドライブモード選択ボタン（p.102、103）
〈▶AF〉AF動作選択ボタン（p.94）
カードスロット（p.33）
〈〉ライブビュー撮影／動画撮影ボタン（p.128／144）
〈Av〉絞り数値／露出補正ボタン
〈✱／⊡〉AEロック／FEロックボタン／インデックス／縮小ボタン（p.124／154）
〈⊞／🔍〉AFフレーム選択／拡大ボタン（p.98）
〈((ı))〉Wi-Fiボタン
アクセスランプ（p.34）
カードスロットカバー（p.33）
DCコード通し部
〈SET〉設定ボタン（p.54）
電池室ふた開放レバー（p.32）
電池室ふた（p.32）
〈🗑〉消去ボタン（p.160）

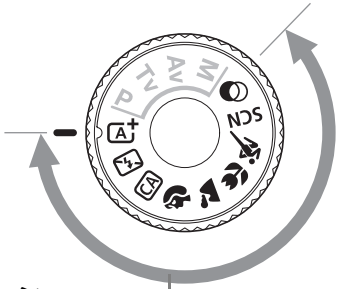
クイック設定画面（〈**P**〉モード［**:撮影画面表示：標準**］設定時（p.52）の例）



● 設定に応じた部分のみ表示されます。

モードダイヤル

モードダイヤルには、「かんたん撮影」と「応用撮影」の機能ゾーンがあります。



かんたん撮影ゾーン

基本操作はシャッターボタンを押すだけです。被写体やシーンに応じてカメラまかせの撮影ができます。

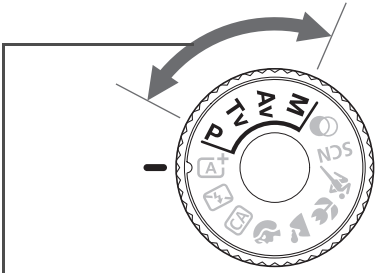
- **シーンインテリジェントオート**（p.66）
- **ストロボ発光禁止**（p.70）
- **クリエイティブオート**（p.71）
- **ポートレート**（p.72）
- **風景**（p.73）
- **クローズアップ**（p.74）
- **スポーツ**（p.75）

SCN：**スペシャルシーン**（p.76）

	集合写真（p.77）		夜景ポートレート（p.81）
	キッズ（p.78）		手持ち夜景（p.82）
	料理（p.79）		HDR逆光補正（p.83）
	キャンドルライト（p.80）		

：**クリエイティブフィルター**（p.84）

	ラフモノクロ		ジオラマ風
	ソフトフォーカス	HDR	HDR絵画調標準
	魚眼風	HDR	HDRグラフィック調
	水彩風	HDR	HDR油彩調
	トイカメラ風	HDR	HDRビンテージ調

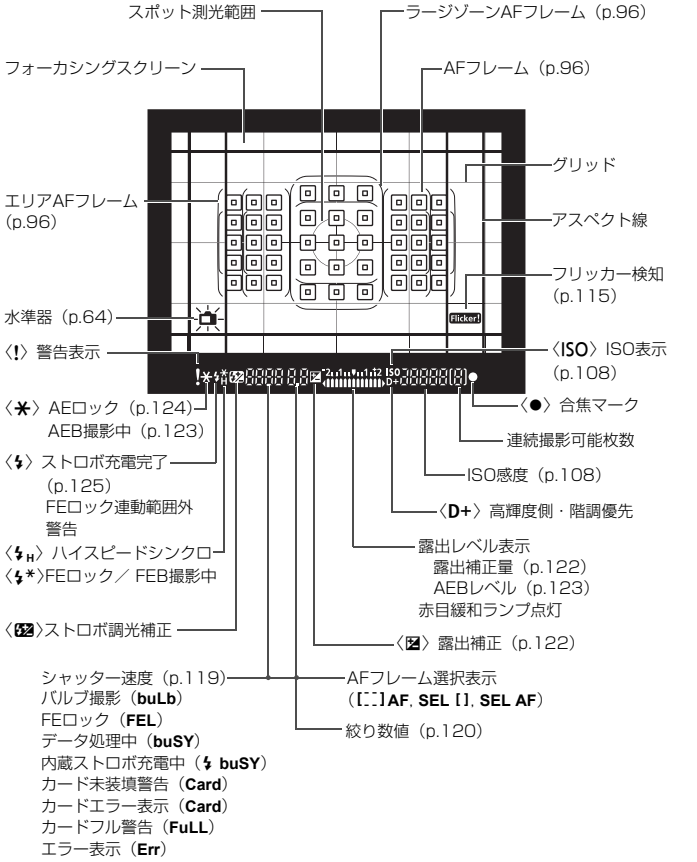


応用撮影ゾーン

思いどおりのさまざまな撮影ができます。

P ：プログラムAE（p.118）
Tv：シャッター優先AE（p.119）
Av：絞り優先AE（p.120）
M ：マニュアル露出（p.121）

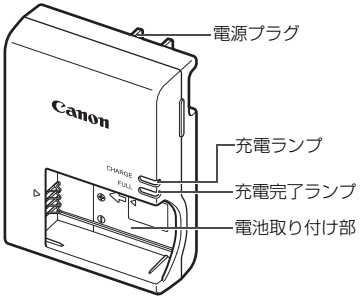
ファインダー内表示



● 設定に応じた部分のみ表示されます。

バッテリーチャージャー LC-E17

バッテリーパック LP-E17の充電器です（p.30）。



注意

指定外の電池を使うと、爆発などの危険があります。
使用済の電池は、各自治体のルールにしたがって処分するか、最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。

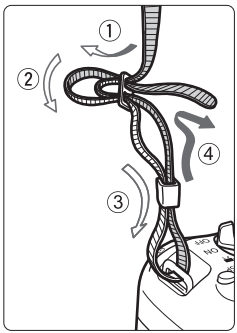
Li-ion

- 不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。詳細は、一般社団法人JBRCのホームページをご参照ください。
  ホームページ：http://www.jbrc.com
- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

1

撮影前の準備と操作の基本

この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、操作の基本について説明しています。

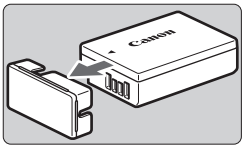


付属のストラップ（吊りひも）の取り付け方

ストラップの先端をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップに付いている留め具の内側を通します。留め具の部分のたるみを取り、引っぱっても留め具の部分がゆるまないことを確認してください。

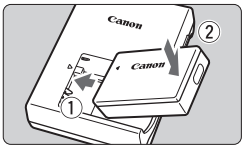
● ストラップにはアイピースカバーが付いています。

電池を充電する



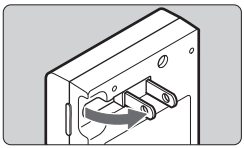
1 保護カバーを外す

● 付属の保護カバーを外します。



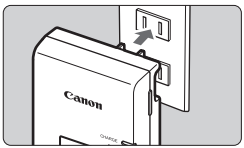
2 電池を取り付ける

● 図のようにして、電池を充電器にしっかりと取り付けます。
● 取り外しは逆の手順で行います。



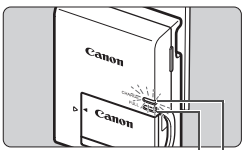
3 電源プラグを起こす

● 充電器のプラグを矢印の方向に起こします。



4 充電する

● プラグをコンセントに差し込みます。
➡ 自動的に充電が始まり、充電ランプがオレンジ色に点灯します。
➡ 充電が完了すると、充電完了ランプが緑色に点灯します。



● **使い切った電池の充電に要する時間は、常温（+23℃）で約2時間です。**なお、充電時間は、周囲の温度や電池の残容量によって大きく異なります。
● 安全に充電を行うため、低温下（+5℃～+10℃）では、充電時間が長くなります（最長約4時間）。

電池と充電器の上手な使い方

● **購入時、電池はフル充電されていません**
充電してからお使いください。

● **充電は、使用する当日か前日にする**
充電して保管していても、自然放電により少しずつ電池の容量が少なくなっていきます。

● **充電が終わったら、電池を取り外し、プラグをコンセントから抜く**

● **カメラを使わないときは、電池を取り出しておく**
電池を長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電状態になり、電池寿命短縮の原因となります。電池の保護カバー（付属）を取り付けて保管してください。なお、フル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。

● **充電器は海外でも使うことができる**
充電器は、家庭用電源のAC100～240V 50/60Hzに対応しています。お使いになる国や地域に対応した、市販の電源プラグ変換アダプターを使用してください。なお、充電器が故障する恐れがありますので、海外旅行用の電子変圧器などに接続しないでください。

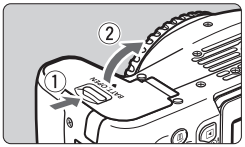
● **フル充電したのにすぐ使えなくなるときは、電池の寿命です**
電池の劣化度を確認した上で、新しい電池をお買い求めください。

● 充電器をコンセントから取り外したときは、約5秒間、充電器のプラグに触れないようにしてください。
● バッテリーパック LP-E17以外は充電しないでください。
● バッテリーパック LP-E17は、キヤノン製品専用です。指定外の充電器、および製品と組み合わせて使用した場合の故障、事故に関しては一切保証できません。

電池を入れる／取り出す

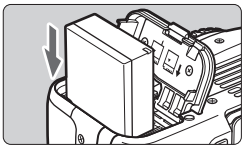
充電したバッテリーパック LP-E17をカメラに入れます。**このカメラのファインダーは、電池を入れると明るくなり、電池を抜くと暗くなります。また、電池が入っていないときは、ファインダー像がぼやけた状態になるため、ピント合わせはできません。**

入れ方



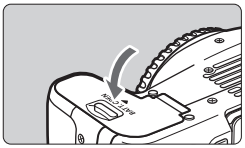
1 ふたを開ける

- レバーを矢印の方向にスライドさせて、ふたを開きます。



2 電池を入れる

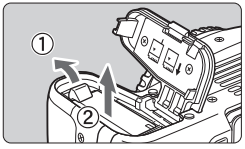
- 電池接点の方から入れます。
- ロック位置までしっかりと入れてください。



3 ふたを閉める

- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押して閉じます。

取り出し方



ふたを開けて、電池を取り出す

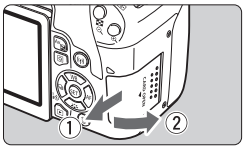
- 電池ロックレバーを矢印の方向に押してロックを外し、電池を取り出します。
- ショート防止のため、必ず電池に付属の保護カバー（p.30）を取り付けてください。

カードを入れる／取り出す

カード（別売）は、SD/SDHC/SDXCメモリーカードが使えます。また、UHS-I 対応のSDHC/SDXCメモリーカードも使えます。撮影した画像は、カードに記録されます。

カードの書き込み禁止スイッチが上側（書き込み／消去可能位置）にセットされていることを確認してください。

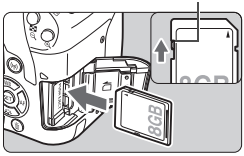
入れ方



1 カバーを開ける

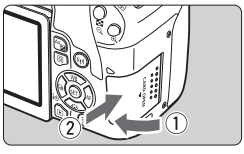
- カバーを矢印の方向にスライドさせてから開きます。

書き込み禁止スイッチ



2 カードを入れる

- **図のようにカードの表を手前にして、「カチッ」と音がするまで差し込みます。**

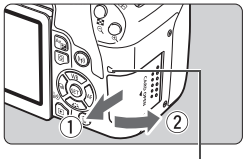


撮影可能枚数

3 カバーを閉める

- カバーを閉じてから、矢印の方向に「カチッ」と音がするまでしっかりとスライドさせます。
- 電源スイッチを〈ON〉にすると、液晶モニターに撮影可能枚数が表示されます。

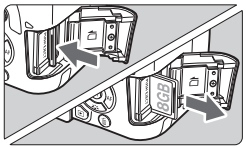
取り出し方



アクセスランプ

1 カバーを開ける

- 電源スイッチを〈OFF〉にします。
- **アクセスランプが消えていることを確認して、カバーを開きます。**
- ［**書き込み中...**］と表示されたときは、カバーを閉じてください。



2 カードを取り出す

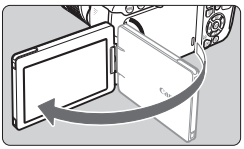
- カードを軽く押し込んで離すと、出てきます。
- カードをまっすぐ取り出して、カバーを閉じます。

アクセスランプが点灯／点滅しているときは、カードへの記録／読み出し中や、消去中、データ転送中です。カードスロットカバーを開けないでください。
また、アクセスランプが点灯／点滅しているときに次のことを行うと、画像データが壊れたり、カードやカメラ本体が損傷する原因になりますので、絶対に行わないでください。

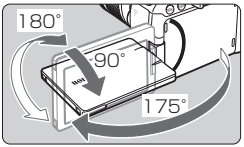
- **カードを取り出す**
- **電池を取り出す**
- **カメラ本体に振動や衝撃を与える**
- **電源コードの抜き差しを行う**（家庭用電源アクセサリー（別売）使用時）

液晶モニターを使う

液晶モニターを開いてメニュー機能の設定や、ライブビュー撮影、動画撮影、画像の再生を行います。液晶モニターは、向きと角度を変えて使用することができます。

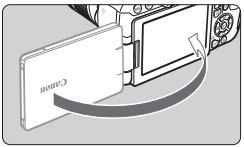


1 液晶モニターを開く



2 液晶モニターを回転させる

- 液晶モニターは、開いた状態や上向き、下向き、対面（裏返し）でも使用することができます。
- 角度は「約」です。

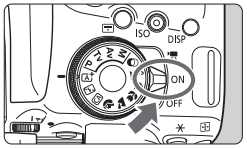


3 画面を表向きにする

- 通常は、画面を表向きにして使用します。

電源を入れる

電源スイッチを入れたときに、**日付/時刻/エリアの設定画面が表示されたときは、38ページを参照して日付/時刻/エリアを設定してください。**



〈🎥〉：カメラが作動します。動画を撮影することができます（p.144）。
〈ON〉：カメラが作動します。静止画を撮影することができます。
〈OFF〉：カメラは作動しません。カメラを使用しないときはこの位置にします。

撮像素子の自動清掃について

- 電源スイッチを〈ON〉にしたときと、〈OFF〉にしたときに、撮像素子の自動清掃が行われます（小さな音が鳴ることがあります）。清掃中は、液晶モニターに〈🗑〉が表示されます。
- 清掃中でもシャッターボタンを半押し（p.45）すると、清掃作業が中止され、すぐに撮影することができます。
- 電源スイッチの〈ON〉〈OFF〉を短い時間で繰り返すと、〈🗑〉が表示されないことがありますが、故障ではありません。

MENU オートパワーオフについて

電池の消耗を防ぐため、カメラを操作しない状態が続くと、［**🔧2：オートパワーオフ**］の設定時間で電源が自動的に切れます（p.151）。シャッターボタンを半押し（p.45）すると、もう一度電源が入ります。

電池残量表示について

電池の残量は、電源を入れたときに、4段階で表示されます。

- : 電池の残量は十分です。
- : 電池の残量が少なくなってきましたが、まだ使用できます。
- : まもなく電池切れになります。（点滅表示）
- : 電池を充電してください。

ファインダー撮影時の撮影可能枚数の目安

（約・枚）

温度	常温（+23℃）	低温（0℃）
ストロボ撮影なし	820	770
50%ストロボ撮影	600	550

● フル充電のバッテリーパック LP-E17使用、ライブビュー撮影なし、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。

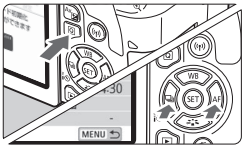
MENU 日付／時刻／エリアを設定する

初めて電源を入れたときや、日付/時刻/エリアの設定が解除されているときは、電源を入れると、日付/時刻/エリアの設定画面が表示されますので、以下の操作手順に従って、エリアから設定してください。住んでいるエリア（地域）を設定しておくと、他の地域に旅行したときは、エリア設定を変更するだけで、そのエリアの日時に変更されます。

撮影画像には、ここで設定した日付/時刻を起点にした撮影日時の情報が付加されますので、必ず設定してください。

1 メインタブを表示する

● 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。

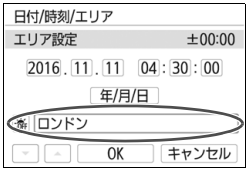


2 [🔧2]タブの[日付/時刻/エリア]を選ぶ

● 〈Q〉ボタンを押して［🔧］タブを選び、〈(SET)〉を押します。

● 〈◄〉〈►〉を押して［🔧2］タブを選びます。

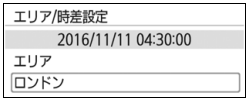
● 〈▲〉〈▼〉を押して［**日付/時刻/エリア**］を選び、〈(SET)〉を押します。



3 エリアを設定する

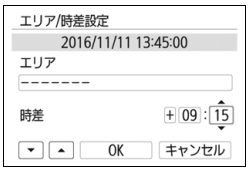
● **初期状態では［ロンドン］に設定されています。**

● 〈◄〉〈►〉を押して［**エリア設定**］を選び、〈(SET)〉を押します。



● もう一度〈SET〉を押します。

● 〈▲〉〈▼〉を押して、エリアを選び〈SET〉を押します。
● 設定したいエリアがないときは、〈MENU〉ボタンを押したあと、次の操作（協定世界時との時差）で設定します。



● 「協定世界時との時差」で設定するときは、〈◄〉〈►〉を押して［**時差**］の項目（＋－/時/分）を選びます。
● 〈SET〉を押して〈⇳〉の状態にします。
● 〈▲〉〈▼〉を押して設定し、〈SET〉を押します（〈□〉の状態に戻ります）。
● エリア/時差の設定が終わったら、〈◄〉〈►〉を押して［OK］を選び、〈SET〉を押します。

4 日付/時刻を設定する

● 〈◄〉〈►〉を押して項目を選びます。
● 〈SET〉を押して〈⇳〉の状態にします。
● 〈▲〉〈▼〉を押して設定し、〈SET〉を押します（〈□〉の状態に戻ります）。

5 サマータイムを設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈◄〉〈►〉を押して［☀］を選びます。
- 〈SET〉を押して〈⇳〉の状態にします。
- 〈▲〉〈▼〉を押して［☀］を選び、〈SET〉を押します。
- サマータイムを［☀］にすると、手順4で設定した時刻が、1時間進みます。［☀］にするとサマータイムが解除され、1時間戻ります。

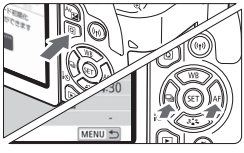
6 設定を終了する

- 〈◄〉〈►〉を押して［OK］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 日付/時刻/エリア、サマータイムが設定され、メニューに戻ります。

MENU 表示言語を選ぶ

1 メインタブを表示する

● 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。



2 ［4 2］タブの［言語］を選ぶ

● 〈Q〉ボタンを押して［4］タブを選び、〈SET〉を押します。
● 〈◄〉〈►〉を押して［4 2］タブを選びます。
● 〈▲〉〈▼〉を押して［言語］を選び、〈SET〉を押します。

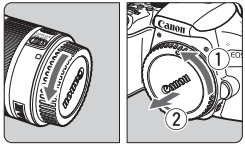
3 言語を設定する

● 〈▲〉〈▼〉を押して言語を選び、〈SET〉を押します。
➡ 表示言語が切り換わります。

レンズを取り付ける／取り外す

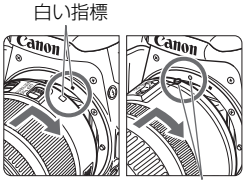
すべてのEFレンズ、EF-Sレンズを使用することができます。**なお、EF-Mレンズは使用できません。**

取り付け方



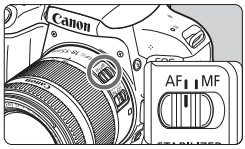
1 キャップを外す

- レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。



2 レンズを取り付ける

- レンズの取り付け指標（白または赤）とカメラ側の取り付け指標の色を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。



3 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

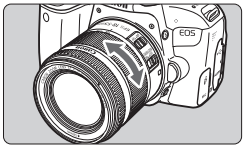
- 〈**AF**〉はAuto Focus：自動ピント合わせのことです。
- 〈**MF**〉はManual Focus：手動ピント合わせのことです。

4 レンズキャップを外す

ゴミやほこりについて、普段から以下のことに注意してください

- レンズの交換は、ほこりの少ない場所で素早く行う
- レンズを取り外してカメラを保管するときは、ボディキャップを必ずカメラに取り付ける
- ボディキャップは、ゴミやほこりを落としてからカメラに取り付ける

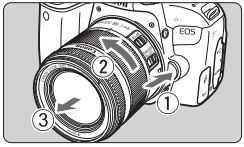
ズーム操作について



レンズのズームリングを手で回す

- ズーム操作は、ピント合わせの前に行ってください。ピントを合わせたあとでズーム操作を行うと、ピントがズレることがあります。

取り外し方



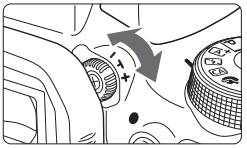
レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す

- 回転が止まるまで回してから、取り外します。
- 取り外したレンズにダストキャップを取り付けます。

レンズで太陽を直接見ないでください。失明の原因になります。

撮影の基本操作

ファインダーが鮮明に見えるように調整する

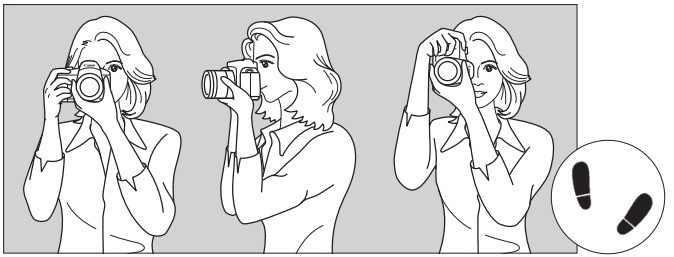


視度調整つまみを回す

- ファインダー内のAFフレームが最も鮮明に見えるように、つまみを右または左に回します。
- つまみが回しにくいときは、アイカップを取り外します。

カメラの構え方

手ブレのない鮮明な画像を撮るために、カメラが動かないようにしっかり構えて撮影します。

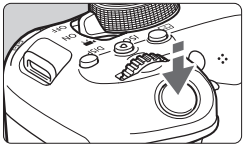


横位置　　縦位置

①右手でグリップを包むようにしっかりと握ります。
②左手でレンズを下から支えるように持ちます。
③右手人差し指の腹をシャッターボタンに軽くのせます。
④脇をしっかり締め、両ひじを軽く体の前に付けます。
⑤片足を軽く踏み出して、体を安定させます。
⑥カメラを額に付けるようにして、ファインダーをのぞきます。

シャッターボタン

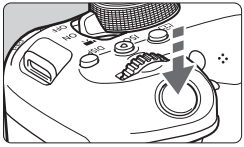
シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで浅く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで深く押すことを「全押し」といいます。



半押し

自動ピント合わせと、自動露出機構によるシャッター速度と絞り数値の設定が行われます。

露出値（シャッター速度と絞り数値）が、ファインダー内に表示されます（☆4）。



全押し

シャッターが切れて撮影されます。

手ブレしにくい撮影のしかた

手にしたカメラが撮影の瞬間に動くことを「手ブレ」といい、全体がぼやけたような写真になります。鮮明な写真を撮るために、次の点に注意してください。

・前ページの『カメラの構え方』のように、カメラが動かないようしっかり構える。
・シャッターボタンを半押ししてピントを合わせたあと、ゆっくりシャッターボタンを全押しする。

MENU 画面の表示レベルを設定する

自分の好みに合わせて、画面の表示方法を設定することができます。必要に応じて設定を変更してください。

1 メインタブを表示する

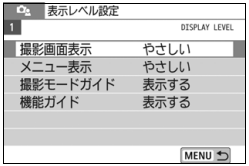
● 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。

2 [ ] タブを選ぶ

● 十字キーの〈◄〉〈►〉を押して[ ]タブを選び、〈(SET)〉を押します。

撮影画面表示

ファインダー撮影時のクイック設定画面を[**標準**]、[**やさしい**](簡単な表示)から選ぶことができます。初期状態では、[**やさしい**]に設定されています。



1 [撮影画面表示] を選ぶ

2 表示方法を選ぶ

● **画面例**

〈CA〉：やさしい

〈CA〉：標準

〈**Av**〉：やさしい

〈**Av**〉：標準

応用撮影ゾーンでは、［**やさしい**］に設定すると、クイック設定画面に表示される項目は、その撮影モードの特徴的な機能に限定されます。なお、［**やさしい**］設定時にクイック設定画面で設定できない項目は、メニュー画面から設定することができます（p.55）。

メニュー表示

メニューの表示方法を［**標準**］、［**やさしい**］から選ぶことができます。［**やさしい**］設定時は〈MENU〉ボタンを押すとメニューのメインタブの説明が表示されます。［**標準**］設定時は〈MENU〉ボタンを押すと、そのままメニュー画面に進みます。初期状態では、［**やさしい**］に設定されています。

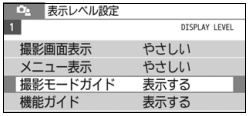
1 ［メニュー表示］を選ぶ

2 表示方法を選ぶ

［**やさしい**］に設定しているときは、［★（マイメニュー）］タブは表示されません。マイメニューの設定をするときは、［**標準**］に変更してください。

撮影モードガイド

ファインダー撮影時、撮影モードを変更したときに、撮影モードの説明（撮影モードガイド）を表示することができます。初期状態では、［**表示する**］に設定されています。

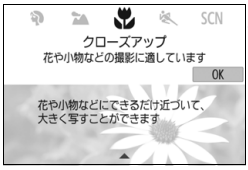


1 **［撮影モードガイド］を選ぶ**

2 **［表示する］を選ぶ**

3 **モードダイヤルを回す**

➡ 設定した撮影モードの説明が表示されます。



4 **〈▼〉ボタンを押す**

➡ さらに、説明が表示されます。

- 〈(SET)〉を押すと、説明は消え、クイック設定画面が表示されます。
- 〈**SCN**〉〈◎〉モードのときは、撮影モードの選択画面が表示されます。

手順3または手順4で、［OK］をタッチしたり、シャッターボタンを半押しすると、説明は消え、クイック設定画面が表示されます。

機能ガイド

クイック設定時やメニュー設定時に、機能・項目の簡単な説明（機能ガイド）を表示することができます。初期状態では、［**表示する**］に設定されています。

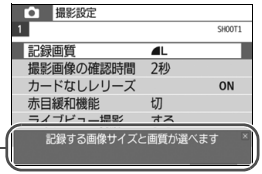
1 **［機能ガイド］を選ぶ**

2 **［表示する］を選ぶ**

● **画面例**

クイック設定画面

メニュー画面



機能ガイド

説明の表示中に、説明をタッチしたり、操作を続けると説明は消えます。

撮影のヒント

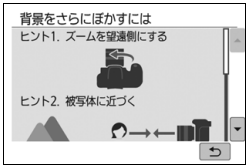
［**撮影画面表示**］を［**やさしい**］に設定しているとき（p.46）、カメラの設定が下記の状況の場合に、撮影のヒントが表示されます。なお、かんたん撮影ゾーンでは［**撮影画面表示**］の設定に関わらず、表示されます。

- 背景をさらにぼかしたいとき（〈**Av**〉モードで絞り数値を最も小さくしたとき）
- 明るすぎる写真になりそうなとき
- 暗すぎる写真になりそうなとき
- 手ブレしそうなとき（かんたん撮影ゾーン時のみ）

1 枠で囲んだ部分をタッチする

➡ 撮影のヒントが表示されます。

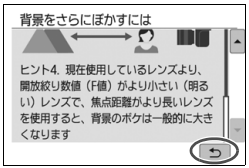
● 〈🗑〉ボタンを押して表示することもできます。



2 撮影のヒントを確認する

● タッチで画面をスクロールすることができます。

● 〈▲〉〈▼〉を押して画面をスクロールすることもできます。



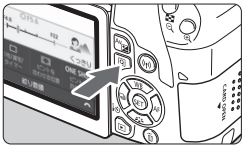
3 ［⮌］をタッチする

➡ 表示が消え、手順1の画面に戻ります。

● 〈㊗〉を押して表示を消すこともできます。

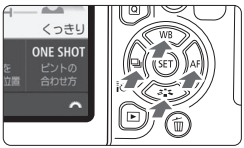
Q 撮影機能のクイック設定

液晶モニターに表示されている撮影機能を直接選択して、直感的な操作で機能の設定を行うことができます。この操作を「クイック設定」といいます。



1 〈Q〉ボタンを押す（⏱10）

➡ クイック設定の状態になります。



2 機能を設定する

- 〈✣〉十字キーを押して機能を選びます。

➡ 選んだ機能の内容と、機能ガイド（p.50）が画面に表示されます。

- 〈⌓〉を回して設定を変更します。

かんたん撮影ゾーン

応用撮影ゾーン

3 撮影する

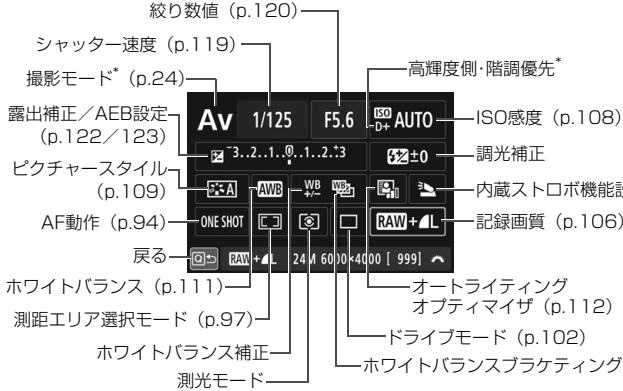
- シャッターボタンを押して撮影します。

➡ 撮影した画像が表示されます。

クイック設定の画面例

● [: 撮影画面表示 : やさしい] 設定時

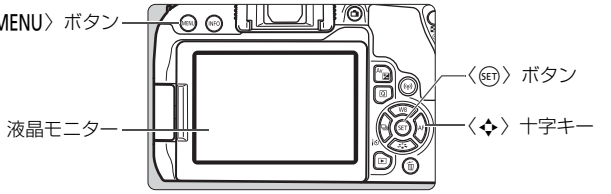
● [: 撮影画面表示 : 標準] 設定時



* クイック設定できません。

MENU メニュー機能の操作と設定

このカメラでは、記録画質や日付/時刻など、さまざまな設定をメニュー機能で行います。

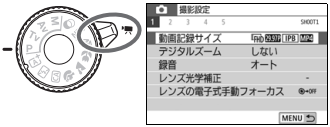


メニュー画面

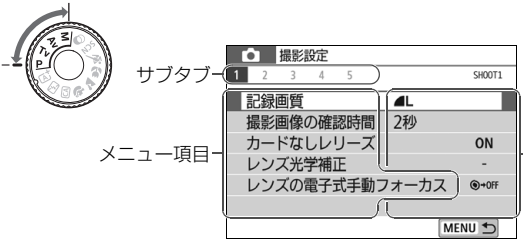
撮影モードによって、表示されるタブやメニュー項目は異なります。

かんたん撮影ゾーン

動画撮影



応用撮影ゾーン



メニュー機能の設定操作

● [📷: メニュー表示 : やさしい] 設定時

1 メインタブを表示する

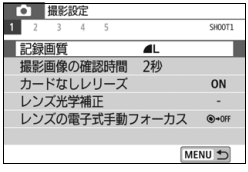
● 〈MENU〉ボタンを押すとメインタブの説明が表示されます。

2 メインタブを選ぶ

● 十字キーの〈◄〉〈►〉を押すと、メインタブ（系統）が切り換わります。

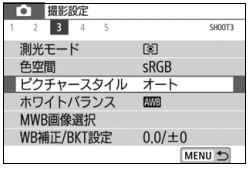
3 メニューを表示する

● 〈(SET)〉を押すと表示されます。
● メインタブの画面に戻るときは〈MENU〉ボタンを押します。



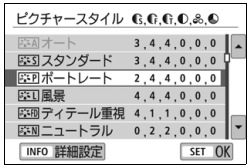
4 サブタブを選ぶ

● 十字キーの〈◄〉〈►〉を押してサブタブを選びます。
● 例えば、本文中の［📷3］タブは、📷（撮影）タブの［3］を選んでいる画面のことです。



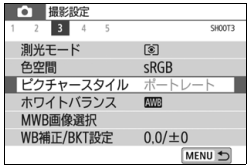
5 項目を選ぶ

● 十字キーの〈▲〉〈▼〉を押して項目を選び、〈(SET)〉を押します。



6 内容を選ぶ

- 十字キーの〈▲〉〈▼〉または〈◄〉〈►〉で内容を選びます（〈▲〉〈▼〉で選ぶ内容と、〈◄〉〈►〉で選ぶ内容があります）。
- 現在設定されている内容は青色で表示されます。



7 内容を設定する

- 〈SET〉を押すと設定されます。
- ➡ 初期状態から設定を変更すると、青色で表示されます（[📷] タブのメニューのみ）。

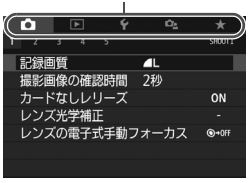
8 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを2回押すと表示が消え、撮影準備状態に戻ります。

- 手順2は〈☁〉または〈Q〉ボタンで操作することもできます。
- 手順3で［OK］をタッチして、メニュー画面に進むこともできます。
- 手順2～8は、液晶モニターにタッチして操作することもできます（p.58）。
- これ以降のメニュー機能の説明は、メニュー画面が表示されていることを前提に説明しています。
- 操作の途中でキャンセルするときは、〈MENU〉ボタンを押します。

● **［：メニュー表示：標準］設定時**

メインタブ



1 メニューを表示する

● 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。

2 タブを選ぶ

● 〈Q〉ボタンを押すと、メインタブ（系統）が切り換わります。

● 十字キーの〈◄〉〈►〉を押してサブタブを選びます。

● 例えば、本文中の［3］タブは、（撮影）タブの［3］を選んでいる画面のことです。

● これ以降の操作は［：**メニュー表示：やさしい**］と同じです。55ページの手順5から参照してください。

● 設定を終了するときは〈MENU〉ボタンを1回押します。

画面にタッチして操作する

液晶モニター（タッチパネル）に指で触れて操作することができます。

タッチ

画面例（クイック設定）

- 液晶モニターに指を触れて、指を離します。
- 液晶モニターに表示されるメニューやアイコンなどを選択するときに使います。
- 例えば、［Q］をタッチすると、クイック設定の状態になります。［Q⮌］をタッチすると、元の画面に戻ります。

タッチでできる操作

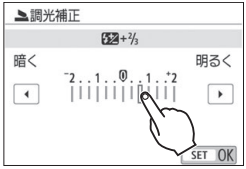
- 〈MENU〉ボタンを押したあとのメニュー機能の設定
- クイック設定
- 〈▭〉〈ISO〉〈▭〉〈▲ WB〉〈▼ ▭〉〈◄ ▭〉〈► AF〉ボタンを押したあとの機能設定
- ライブビュー撮影時のタッチAF／タッチシャッター
- 動画撮影時のAFフレームの選択
- ライブビュー撮影／動画撮影時の機能設定
- 再生操作

ドラッグ

画面例（メニュー画面）

● 液晶モニターに指を触れたまま動かします。

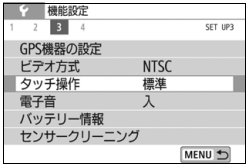
画面例（目盛り表示）



ドラッグでできる操作

- 〈MENU〉ボタンを押したあとのメニュー画面のタブや項目の選択
- 目盛り表示の設定
- クイック設定
- AFフレームの選択
- ライブビュー撮影／動画撮影時の機能設定
- 再生操作

MENU タッチしたときの反応を設定する



1 [タッチ操作] を選ぶ

- [3] タブの [**タッチ操作**] を選び、〈(SET)〉を押します。

2 タッチしたときの反応を設定する

- 内容を選び〈(SET)〉を押します。
- 通常は [**標準**] を選びます。
- [**敏感**] に設定すると、[**標準**] に比べて画面に触れたときの反応がよくなります。操作して使いやすい方を選んでください。
- タッチ操作を禁止するときは、[**しない**] を選びます。

タッチパネル操作時の注意事項

- 感圧式ではありませんので、爪やボールペンなど、先のとがったもので操作しないでください。
- 濡れた指で操作しないでください。
- 液晶モニターに水滴がついていたり、濡れた指で操作すると、反応しなくなったり、誤動作することがあります。カメラの電源を一旦切ってから、布などでふき取ってください。
- 液晶モニターに市販の保護シートやシールを貼ると、タッチの反応が悪くなることがあります。
- [**敏感**] 設定時に素早いタッチ操作を行うと、反応しづらいことがあります。

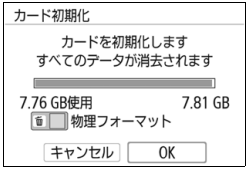
MENU カードを初期化する

新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで正しく記録できるように、初期化（フォーマット）してください。

カードを初期化すると、カードに記録されている内容は、画像だけでなくすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、記録内容を十分に確認してから初期化してください。必要なデータは、初期化する前に必ずパソコンなどに保存してください。

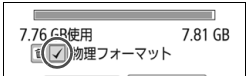
1 ［カード初期化］を選ぶ

● ［1］タブの［**カード初期化**］を選び、〈(SET)〉を押します。



2 初期化する

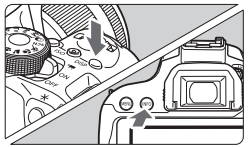
● ［OK］を選び〈(SET)〉を押します。
➡ カードが初期化されます。
➡ 初期化が終了すると、メニューに戻ります。



● 物理フォーマットを行うときは、〈🗑〉ボタンを押して、［**物理フォーマット**］の横に〈✓〉が付いた状態で［OK］を選びます。

液晶モニターの表示切り換え

液晶モニターには、クイック設定画面や、メニュー機能、撮影した画像などを表示させることができます。



- 電源を入れると、クイック設定画面が表示され、撮影機能の設定状態を確認することができます。
- **シャッターボタンを半押しすると表示が消え、指を離すと表示されます。**

- 〈DISP〉ボタンを押して表示を消すこともできます。もう一度押すと表示されます。
- 〈INFO〉ボタンを押すたびに、水準器、クイック設定画面の切り換えができます。

メニュー機能

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示され、もう一度押すと、元の画面に戻ります。

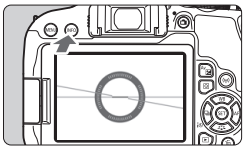
撮影した画像

- 〈▶〉ボタンを押すと表示され、もう一度押すと、元の画面に戻ります。

水準器を表示する

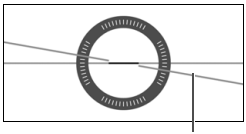
カメラの傾き補正に有効な水準器を、液晶モニターとファインダー内に表示することができます。なお、傾きの確認は、ともに水平方向のみです（前後方向の傾きは表示されません）。

液晶モニターに水準器を表示する



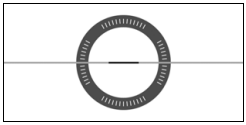
1 **〈INFO〉ボタンを押す**

- 〈INFO〉ボタンを押すたびに表示が変わります。
- 水準器を表示します。



2 **カメラの傾きを確認する**

- 水平方向の傾きが1°きざみで表示されます。なお、1目盛りは5°です。
- 赤い線が緑色に変わると、傾きがほぼ補正された状態です。

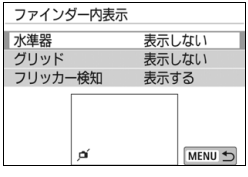


MENU ファインダー内に水準器を表示する

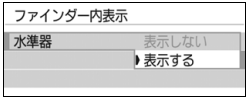
ファインダー内にカメラのマークによる簡易的な水準器を表示することができます。この機能は撮影時に表示されるため、傾きを確認しながら手持ち撮影を行うことができます。

1 [ファインダー内表示] を選ぶ

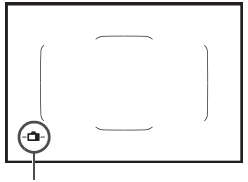
● [2] タブの [ファインダー内表示] を選び、〈SET〉を押します。



2 [水準器] を選ぶ



3 [表示する] を選ぶ



4 シャッターボタンを半押しする

➡ 図の位置に水準器が表示されます。

水平

傾き 1°

傾き 2° 以上

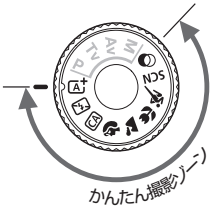
● 縦位置撮影時も機能します。

2

かんたん撮影と画像確認

この章では、モードダイヤルのかんたん撮影ゾーンを使って上手に撮影する方法と、撮影した画像の確認方法を説明しています。

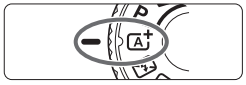
かんたん撮影ゾーンでは、シャッターボタンを押すだけで、カメラまかせの撮影ができるように、各種機能が自動設定されます（p.87）。また、誤操作による失敗を防ぐため、複雑な撮影機能の設定変更はできないようになっていますので、安心して撮影してください。



〈SCN〉〈◒〉モードで撮影する前に
液晶モニターが消灯しているときは、〈Q〉ボタン（p.76、84）を押して、設定されている撮影モードを確認してから撮影してください。
* 〈**SCN**〉：スペシャルシーン
* 〈◒〉：クリエイティブフィルター

全自動で撮る（シーンインテリジェントオート）

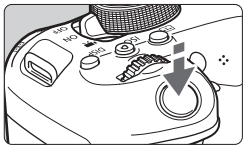
〈A+〉はカメラまかせの全自動撮影ができるモードです。カメラが撮影シーンを解析し、シーンに適した設定を自動的に行います。また、被写体の動きを検知して、止まっている被写体や動いている被写体に、自動でピントを合わせることができます（p.69）。



1 モードダイヤルを〈A+〉にする

2 被写体（写したいもの）にエリアAFフレームを合わせる

- すべてのAFフレームを使ってピント合わせが行われ、基本的に一番近くにある被写体にピントが合います。
- エリアAFフレームの中央を被写体に重ね合わせると、ピントが合いやすくなります。



3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、レンズが動いてピント合わせが行われます。
- ➡ ピントが合うと、ピントを合わせたAFフレームが表示されます。同時に「ピピッ」と電子音が鳴り、ファインダー内に合焦マーク〈●〉が点灯します。
- ➡ 暗い場所では、AFフレームが一瞬赤く光ります。
- ➡ 必要に応じて内蔵ストロボが自動的に上がります。

手順1で、撮影モードの説明が表示されたときは、〈SET〉を押すと説明が消えます（p.49）。

4 撮影する

- シャッターボタンを全押しすると撮影されます。
- ➡ 液晶モニターに撮影した画像が約2秒間表示されます。
- 撮影を終了するときは、内蔵ストロボを手で押し下げて収納します。

〈全自動〉モードで、自然や屋外シーン、または夕景シーンを撮ると、より印象的な色あいの写真になります。なお、好みの色あいにならなかったときは、応用撮影ゾーンで、〈SCN〉以外のピクチャースタイルを選んで撮影してください（p.109）。

? こんなときは

● 合焦マーク〈●〉が点滅してピントが合わない

・明暗差（コントラスト）のある部分にエリアAFフレームを合わせてシャッターボタンを半押ししてください（p.45）。
・被写体に近づきすぎているときは、離れて撮影してください。
・測距エリア選択モードを変更して撮影してください（p.96）。初期状態では、自動選択AFに設定されています。

● ピントが合ったのにAFフレームが赤く照明されない

AFフレームは、暗い場所や、暗い被写体にピントが合ったときに赤く照明されます。

● 複数のAFフレームが同時に表示される

表示されているすべての位置にピントが合っています。被写体に合わせたAFフレームも表示されているときは、そのまま撮影してください。

● **電子音が小さく鳴り続ける（合焦マーク〈●〉も点灯しない）**

動いている被写体に、カメラがピントを合わせ続けている状態です（合焦マーク〈●〉は点灯しません）。動いている被写体にピントが合った写真を撮ることができます。

なお、この状態のときは、フォーカスロック撮影（p.69）はできません。

● **シャッターボタンを半押ししてもピント合わせをしない**

レンズのフォーカスモードスイッチが〈**MF**〉（手動ピント合わせ）になっているときは、〈**AF**〉（自動ピント合わせ）にしてください。

● **明るい日中なのにストロボ撮影になった**

逆光状態のときは、被写体の影を和らげるためにストロボ撮影になることがあります。ストロボを発光させたくないときは、クイック設定で［**内蔵ストロボの発光**］を［⚡］に設定するか（p.86）、〈🚫〉（ストロボ発光禁止）モードで撮影してください（p.70）。

● **内蔵ストロボが発光して、かなり明るい写真になった**

被写体から離れて撮影してください。ストロボ撮影時に、被写体が近いと、かなり明るい写真（露出オーバー）になることがあります。

● **暗い場所で内蔵ストロボが連続して光った**

AFでピントを合わせやすくするため、シャッターボタンを半押しすると内蔵ストロボが連続的に光ることがあります。AF補助光といわれる機能で、有効距離の目安は4m以内です。なお、内蔵ストロボが連続して発光するときに音がしますが、故障ではありません。

● **ストロボ撮影したら、画面の下側が不自然に暗くなった**

写したいものに近づきすぎて、レンズの影が写り込んでいます。被写体から離れて撮影してください。また、レンズの先端にフードが付いているときは、外して撮影してください。

全自動を使いこなす（シーンインテリジェントオート）

構図を変えて撮影する

シーンによっては、被写体を左右どちらかに配置して、背景もバランス良く入れた方が、奥行きのある写真に仕上がります。

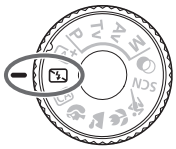
〈🅰+〉モードでは、止まっている被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定されます。そのまま構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影します。これを「フォーカスロック撮影」といいます。かんたん撮影ゾーンの他のモードでもフォーカスロック撮影ができます（〈🚫〉〈**SCN**：🏃〉を除く）。

動いているものを撮影する

〈🅰+〉モードでは、ピントを合わせるときや、ピントを合わせたあとに被写体が動く（距離が変わる）と、被写体に対して連続的にピントを合わせ続ける機能（AIサーボAF）が働きます（電子音が小さく鳴り続けます）。被写体がエリアAFフレームから外れないようにして、シャッターボタンを半押しし続けると、ピントを合わせ続けます。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。

ストロボが使えない場所で写す

カメラが撮影シーンを解析し、シーンに適した設定を自動的に行います。美術館や水族館など、ストロボ撮影が禁止されている場所では、〈〉（ストロボ発光禁止）を使用します。



撮影のポイント

● **ファインダー内の数値が点滅したら手ブレに注意する**

手ブレしやすい暗い場所では、ファインダー内の数値（シャッター速度）が点滅します。カメラが動かないようにしっかり構えるか、三脚を使用してください。ズームレンズのときは、レンズを広角側にセットすると、手持ち撮影でも手ブレしにくくなります。

● **人物も写真に入れるときは**

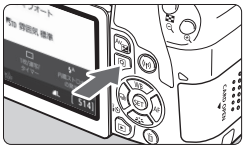
暗い場所では、撮影が終わるまで動かないように、写される人に声をかけてください。撮影中に動くと、人物がブレた写真になります。

CA クリエイティブオートで撮る

〈CA〉モードでは、①雰囲気を選んで撮影、②背景ぼかし設定、③ドライブモード、④内蔵ストロボの発光を設定して撮影することができます。なお、初期状態の設定は、〈A+〉モードと同じです。

＊ CAは、Creative Auto（クリエイティブオート）の略です。

1 モードダイヤルを〈CA〉にする



2 〈Q〉ボタンを押す（☆10）

➡ クイック設定の状態になります。

3 機能を設定する

● 〈✣〉十字キーを押して機能を選びます。

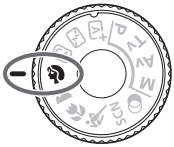
➡ 選んだ機能の内容と、機能ガイド（p.50）が画面に表示されます。

4 撮影する

● シャッターボタンを押して撮影します。

人物を写す

背景をぼかして人物を浮き立たせた写真を撮りたいときは、〈〉（ポートレート）を使用します。肌や髪の毛の感じが柔らかな写真になります。



撮影のポイント

● **人物と背景ができるだけ離れている場所を選ぶ**

人物と背景が離れているほど、背景のボケ方が大きくなります。また、背景がすっきりしていて暗いほど人物が浮き立ちます。

● **望遠レンズを使用する**

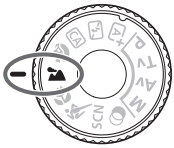
ズームレンズのときは、レンズを望遠側にして、人物の上半身が画面いっぱいに入るよう人物に近づきます。

● **顔にピントを合わせる**

ピント合わせのときに、顔の位置にあるAFフレームが光ったことを確認して撮影します。なお、顔をアップで写すときは、目にピントを合わせると効果的です。

風景を写す

広がりのある風景など、近くから遠くまでピントの合った写真を撮りたいときは、〈🏞〉（風景）を使用します。空や緑が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。



撮影のポイント

● **ズームレンズは広角側にする**

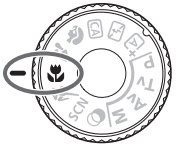
ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、近くから遠くまでピントの合った写真を撮ることができます。また、風景の広がりも表現することができます。

● **夜景を撮影するときは**

〈🏞〉は内蔵ストロボが発光しませんので、夜景を写すこともできます。手持ちで夜景を撮影すると手ブレしますので、三脚を使用して撮影します。

花や小物を大きく写す

花や小物などに近づいて大きく写したいときは、〈🌷〉（クローズアップ）を使用します。別売のマクロレンズを使用すると、小さなものをより大きく写すことができます。



撮影のポイント

● **すっきりした背景を選ぶ**

背景がすっきりしているほど、花や小物が浮き立ちます。

● **写したいものにできるだけ近づく**

最も近づくことができる距離（最短撮影距離）は、使用しているレンズで確認してください。レンズによっては、〈**0.25m/0.8ft**〉というように書かれているものもあります。なお、最短撮影距離は、カメラの上面の〈⊖〉（撮像面マーク）から被写体までの距離です。近づきすぎると合焦マーク〈●〉が点滅します。

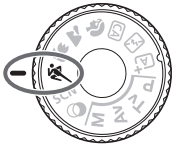
内蔵ストロボが発光して、画像の下側が不自然に暗くなった場合は、少し離れて撮りなおしてください。

● **ズームレンズは望遠側にする**

ズームレンズのときは、望遠側にすると大きく写すことができます。

動きのあるものを写す

人の走っている姿や乗り物など、動いているものにピントの合った写真を撮りたいときは、〈🏃〉（スポーツ）を使用します。



撮影のポイント

● **望遠レンズを使用する**

遠くからでも撮影できるように、できるだけ望遠レンズを使用します。

● **エリアAFフレームで被写体を捉え続ける**

シャッターボタンを半押しすると、エリアAFフレーム内でピント合わせが始まります。ピント合わせを行っている間、電子音が小さく鳴り続け、ピントが合わないと合焦マーク〈●〉が点滅します。

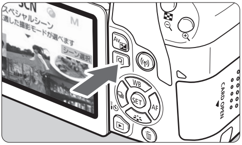
初期設定では、〈H〉（高速連続撮影*）が設定されています。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。そのままシャッターボタンを押し続けると、ピントを合わせ続けながら連続撮影して動きの変化を写すことができます。

* ファインダー撮影時：最高約6.0コマ／秒、ライブビュー撮影時：最高約4.5コマ／秒

SCN: スペシャルシーンモードで撮る

　被写体やシーンに合わせて撮影モードを選ぶだけで、撮影に適した機能が自動設定され、カメラまかせで撮影することができます。

1 モードダイヤルを〈SCN〉にする



2 〈Q〉ボタンを押す（10）

➡ クイック設定の状態になります。

3 撮影モードを選ぶ

● ［**シーン選択**］を選び、〈SET〉を押します。

● 〈▲〉〈▼〉を押して撮影モードを選び、〈SET〉を押します。
● 〈◎〉を回して選ぶこともできます。

> ［**：撮影モードガイド**］を［**表示する**］に設定しているときは、手順1のあと、〈SET〉を押すと、撮影モードの選択画面に進みます。

SCNモードで設定できる撮影モード

撮影モード		参照頁
	集合写真	p.77
	キッズ	p.78
	料理	p.79
	キャンドルライト	p.80

撮影モード		参照頁
	夜景ポートレート	p.81
	手持ち夜景	p.82
	HDR逆光補正	p.83

集合写真を写す

集合写真を撮るときは〈👪〉（集合写真）を使用します。手前と奥の両方の人物にピントが合った写真を撮ることができます。

撮影のポイント

● **広角レンズを使用する**

ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、手前と奥の両方の人物にピントが合いやすくなります。また、人物から少し離れると（全身が写るくらいに）ピントの合う範囲が広くなります。

● **連続撮影をする**

目を閉じてしまう人がいるかもしれませんので、連続撮影して何枚か撮影しておくことをおすすめします。

子供を写す

動き回る子供にピントを合わせ続けて撮影したいときは、〈キッズ〉を使用します。肌色が健康的な写真になります。

撮影のポイント

● **エリアAFフレームで被写体を捉え続ける**

シャッターボタンを半押しすると、エリアAFフレーム内でピント合わせが始まります。ピント合わせを行っている間、電子音が小さく鳴り続け、ピントが合わないと合焦マーク〈●〉が点滅します。

● **連続して撮影する**

初期設定では、〈H〉（高速連続撮影*）が設定されています。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。そのままシャッターボタンを押し続けると、ピントを合わせ続けながら連続撮影して、表情や動きの変化を写すことができます。

* ファインダー撮影時：最高約6.0コマ／秒、ライブビュー撮影時：最高約4.5コマ／秒

料理を写す

料理を撮影するときに、〈🍴〉（料理）を使用します。明るく、おいしそうな色あいの写真になります。また、白熱電球下などで撮影するときは、光源による赤みを抑えた写真になります。

撮影のポイント

● **色あいを変える**

［**色あい**］を変えることができます。料理の赤みを強めにしたいときは［**暖色**］側に、赤みが強すぎるときは［**寒色**］側に設定を変更して撮影してください。

● **なるべくストロボを使わないで撮影する**

料理にストロボ光が直接あたると、お皿や料理に反射光が写り込んだり、不自然な影ができてしまったりします。そのため、初期設定では、〈⚡〉（内蔵ストロボ発光禁止）に設定されています。暗い場所では手ブレに注意して撮影してください。

キャンドルライトと人物を写す

キャンドルライトに照らされた人物を撮りたいときは、〈🎂〉（キャンドルライト）を使用します。キャンドルライトの雰囲気を生かした色あいの写真になります。

撮影のポイント

- **中央のAFフレームでピントを合わせる**
  ファインダー中央のAFフレームを人物に合わせて撮影します。
- **ファインダー内の数値が点滅したら手ブレに注意する**
  手ブレしやすい暗い場所では、ファインダー内の数値（シャッター速度）が点滅します。カメラが動かないようにしっかり構えるか、三脚を使用してください。ズームレンズのときは、レンズを広角側にセットすると、手持ち撮影でも手ブレしにくくなります。
- **色あいを変える**
  ［**色あい**］を変えることができます。キャンドルライトの赤みを強めにしたいときは［**暖色**］側に、赤みが強すぎるときは［**寒色**］側に設定を変更して撮影してください。

夜景と人物を写す（三脚を使う）

人物と、その背景にある美しい夜の街並みや夜景を明るくきれいに写したいときは、〈🌃〉（夜景ポートレート）を使用します。三脚の使用をおすすめします。

撮影のポイント

● **広角レンズと三脚を使用する**

ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、広い範囲の夜景を写すことができます。また、手持ち撮影では手ブレしますので、三脚を使用して撮影します。

● **画像の明るさを確認する**

暗い場所ではストロボが自動発光して人物をきれいに写します。

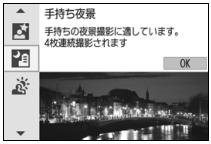
なお、撮影した画像はその場で再生し、画像の明るさを確認することをおすすめします。人物が暗いときは、近づいて撮影してください。

● **他の撮影モードでも撮影しておく**

ブレた写真になりやすいので、〈📷+〉と〈🌃〉でも撮影しておくことをおすすめします。

夜景を写す（手持ち撮影）

夜景を撮影するときは三脚を使用した方がきれいに撮影できますが、〈🤳〉（手持ち夜景）を使用すると、カメラを手に持ったまま夜景を撮影することができます。この撮影モードでは、1回の撮影で4枚連続撮影し、手ブレを抑えた画像が1枚記録されます。



撮影のポイント

● **カメラをしっかり構える**

撮影中、カメラが動かないようにしっかり構えます。この撮影モードは、4枚の画像の位置を合わせながら合成して、1枚の画像を作成しますが、手ブレなどにより、画像のズレ量が大きいと、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。

● **人物も一緒に撮るときはストロボ発光**

人物も一緒に撮るときは〈Q〉ボタンを押して〈ϟ〉（内蔵ストロボ発光）に設定します。人物もきれいに写るように、初めの1枚がストロボ撮影になります。4枚撮影し終わるまで人物が動かないように注意してください。

逆光シーンを写す

明るいところと暗いところが混在する逆光シーンなどを写すときは、〈☀〉（HDR逆光補正）を使用します。1回の撮影で明るさの異なる3枚の画像を連続撮影し、特に逆光による黒つぶれを抑えた広い階調の画像が1枚記録されます。

撮影のポイント

● **カメラをしっかり構える**

撮影中、カメラが動かないようにしっかり構えます。この撮影モードは、3枚の画像の位置を合わせながら合成して、1枚の画像を作成しますが、手ブレなどにより、画像のズレ量が大きいと、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。

フィルター効果を付けて撮影する

〈🎨〉（クリエイティブフィルター）モードでは、フィルター効果（10種類：ラフモノクロ*／ソフトフォーカス*／魚眼風*／水彩風*／トイカメラ風*／ジオラマ風*／HDR絵画調標準／HDRグラフィック調／HDR油彩調／HDRビンテージ調）を付けた画像を撮影することができます。ライブビュー撮影状態にすると、撮影前にフィルター効果を画面で確認することができます。保存される画像は、フィルター効果ありの画像のみです。

＊印の効果は、フィルター効果なしで通常の撮影を行い、撮影後に画像に効果を付けて別画像として保存することもできます。

1 モードダイヤルを〈🎨〉にする

2 ライブビュー映像を表示する

- 〈📷〉ボタンを押して、ライブビュー映像を表示します。

3 クイック設定で［クリエイティブフィルター］を選ぶ

- 〈Q〉ボタンを押します（⏱10）。
- 〈▲〉〈▼〉を押して画面左上の［🖼］を選び、〈(SET)〉を押します。

4 撮影モードを選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉を押して撮影モードを選び〈(SET)〉を押します。
- ➡ フィルター効果が反映された映像が表示されます。

モードで設定できる撮影モード

撮影モード	
	ラフモノクロ
	ソフトフォーカス
	魚眼風
	水彩風
	トイカメラ風

撮影モード	
	ジオラマ風
HDR	HDR絵画調標準
HDR	HDRグラフィック調
HDR	HDR油彩調
HDR	HDRビンテージ調

5 効果を調整する

- 〈Q〉ボタンを押して、[**クリエイティブフィルター**]の下のアイコンを選びます（、HDR、HDR、HDR、HDRを除く）。
- 〈◄〉〈►〉を押して効果を調整し、〈(SET)〉を押します。

6 撮影する

- シャッターボタンを押して撮影します。
- ファインダー撮影を行うときは、〈📷〉ボタンを押してライブビュー撮影を終了します。それからシャッターボタンを押して撮影します。

Q クイック設定について

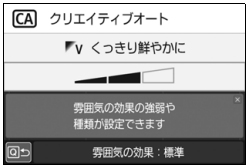
かんたん撮影ゾーンで、〈Q〉ボタンを押すと、クイック設定の状態になり、87～88ページの表に示した項目が設定できるようになります。

1 モードダイヤルをかんたん撮影ゾーンにする

2 〈Q〉ボタンを押す（⏱10）

➡ クイック設定の状態になります。

例：〈CA〉

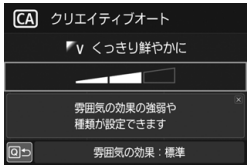


3 機能を設定する

- 〈✣〉十字キーを押して機能を選びます（ではこの操作は不要）。
  - ➡ 選んだ機能の内容と、機能ガイド(p.50)が画面に表示されます。
- 〈〉を回して設定を変更します。
- 機能を選び〈SET〉を押すと、一覧から選ぶこともできます。

- ［：撮影画面表示：標準］設定時は、以下のような画面が表示されます。

例：〈CA〉



かんたん撮影ゾーンで設定できる機能

●：初期設定*　○：選択可能　□：選択不可

項目								
ドライブモード (p.102)	□：1枚撮影	●	●	●	○	●	●	○
	□H：高速連続撮影	○	○	○	○	○	○	●
	□：低速連続撮影	○	○	○	●	○	○	○
	10：10秒	○	○	○	○	○	○	○
	2：2秒	○	○	○	○	○	○	○
	C：連続撮影	○	○	○	○	○	○	○
内蔵ストロボの発光	A：自動発光	●		●	●		●	
	：常時発光	○		○	○		○	
	：発光禁止	○	●	○	○	●	○	●
雰囲気を選んで撮影				○				
背景ぼかし設定				○				
明るさ（p.89）					○	○	○	○

項目		SCN						
ドライブモード (p.102)	□：1枚撮影	●	○	●	●	●	●	●
	□H：高速連続撮影	○	●	○	○	○	○	○
	□：低速連続撮影	○	○	○	○	○	○	○
	10：10秒	○	○	○	○	○	○	○
	2：2秒	○	○	○	○	○	○	○
	C：連続撮影	○	○	○	○	○	○	○
内蔵ストロボの発光	A：自動発光	●	●			●		
	：常時発光	○	○	○			○	
	：発光禁止	○	○	●	●		●	●
明るさ（p.89）		○	○	○	○	○	○	
色あい（p.79、80）				○	○			

* 撮影モードを変えたり、電源スイッチを〈OFF〉にすると、初期設定に戻ります（セルフタイマーの設定を除く）。

●：初期設定* ○：選択可能 □：選択不可

項目						
ドライブモード (p.102)	□：1枚撮影	●	●	●	●	●
	H：高速連続撮影					
	：低速連続撮影					
	：10秒	○	○	○	○	○
	2：2秒	○	○	○	○	○
	C：連続撮影	○	○	○	○	○
内蔵ストロボの発光	A：自動発光	●	●	●	●	●
	：常時発光	○	○	○	○	○
	：発光禁止	○	○	○	○	○
効果の調整（p.84）		○	○	○	○	○

項目						
ドライブモード (p.102)	□：1枚撮影	●	●	●	●	●
	H：高速連続撮影		○	○	○	○
	：低速連続撮影		○	○	○	○
	：10秒	○	○	○	○	○
	2：2秒	○	○	○	○	○
	C：連続撮影	○	○	○	○	○
内蔵ストロボの発光	A：自動発光	○				
	：常時発光	○				
	：発光禁止	●	●	●	●	●
効果の調整（p.84）						

* 撮影モードを変えたり、電源スイッチを〈OFF〉にすると、初期設定に戻ります（セルフタイマーの設定を除く）。

明るさを調整する

かんたん撮影ゾーンの〈A+〉〈P〉〈CA〉〈SCN：〉〈〉を除く撮影モードでは、明るさを調整して撮影することができます。「0」を基準に、明るさ、暗さを、それぞれ3段階ずつ調整することができます。

1 モードダイヤルを〈〉〈〉〈〉〈〉〈SCN〉のいずれかにする

- 〈SCN〉のときは、〈〉〈〉〈〉〈〉〈〉〈〉のいずれかに設定します。

2 ライブビュー映像を表示する

- 〈〉ボタンを押して、ライブビュー映像を表示します（〈〉を除く）。

3 クイック設定で明るさを選ぶ

- 〈Q〉ボタンを押します（10）。
- 〈▲〉〈▼〉を押して［明るさ］を選び、〈◄〉〈►〉を押して明るさを設定します。
- ➡ 選んだ明るさの仕上がりイメージが表示されます。

4 撮影する

- シャッターボタンを押して撮影します。
- ファインダー撮影を行うときは、〈〉ボタンを押してライブビュー撮影を終了します。それからシャッターボタンを押して撮影します。
- 撮影モードを変えたり、電源スイッチを〈OFF〉にすると、［0］（標準）に戻ります。

▶ 画像を再生する

ここでは、一番手軽に画像を再生する方法を説明します。再生方法に関する詳しい説明は、153ページを参照してください。

1 画像を再生する

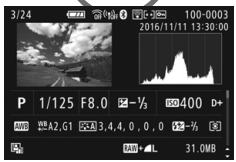
- 〈▶〉ボタンを押します。
- ➡ 最後に撮影した画像、または最後に再生した画像が表示されます。

2 画像を選ぶ

- 〈◀〉を押すと、最後に撮影した画像から新しい順に画像が表示されます。
  〈▶〉を押すと、古い画像から順に新しい画像が表示されます。
- 〈INFO〉ボタンを押すたびに、表示形式が切り換わります。

情報表示なし

簡易情報表示



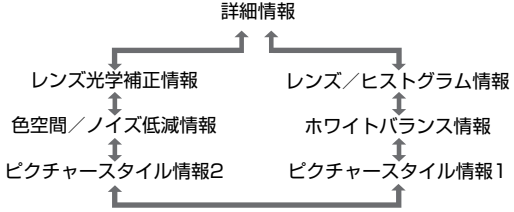
撮影情報表示

3 再生を終了する

● 〈▶〉ボタンを押すと再生が終了し、撮影準備状態に戻ります。

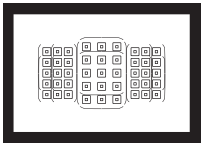
撮影情報表示について

撮影情報表示の画面（p.90）が表示されている状態で〈▲〉〈▼〉を押すと、画面下側の撮影情報が以下のように切り換わります。



3

AF／ドライブの設定



ファインダー内に配置されたAFフレームを使用して、さまざまな撮影シーンに対応したAF撮影を行うことができます。

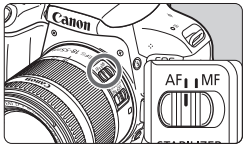
また、撮影状況や被写体にあわせて、オートフォーカスの作動特性を選択したり、最適なドライブモードを選択することができます。

- ページタイトル右の 応用 は、応用撮影ゾーン（p.25）限定の機能であることを示しています。
- AF動作は、かんたん撮影ゾーンでは自動設定されます。

〈**AF**〉はAuto Focus（オートフォーカス）の略で自動ピント合わせのことです。〈**MF**〉はManual Focus（マニュアルフォーカス）の略で手動ピント合わせのことです。

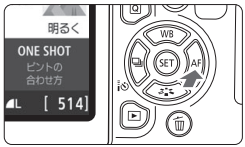
AF: ピント合わせの動作を変える 応用

撮影状況や被写体にあわせて、AF（Auto Focus：自動ピント合わせ）の作動特性を選ぶことができます。なお、かんたん撮影ゾーンでは、撮影モードごとに最適なAF動作が自動設定されます。



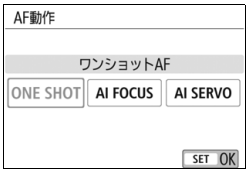
1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

2 モードダイヤルを応用撮影ゾーンにする



3 〈► AF〉ボタンを押す

➡［AF動作］が表示されます。



4 AF動作を選ぶ

● 〈◄〉〈►〉を押してAF動作を選び、〈(SET)〉を押します。

5 ピントを合わせる

● AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しすると、設定したAF動作でピント合わせが行われます。

止まっている被写体を撮る：ワンショットAF

AFフレーム　合焦マーク

止まっている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると1回だけピント合わせを行います。

- 被写体にピントが合うと、ピント合わせを行ったAFフレームが表示され、ファインダー内に合焦マーク〈●〉が点灯します。
- 評価測光のときは、ピントが合うと同時に露出値が決まります。
- シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定され、構図を変えて撮影することができます。

動いている被写体を撮る：AIサーボAF

撮影距離がたえず変化する（動いている）被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、被写体にピントを合わせ続けます。

- 露出は撮影の瞬間に決まります。
- 測距エリア選択モード（p.96）が、自動選択AFのときは、エリアAFフレームで被写体を捉えていれば、継続してピント合わせが行われます。

AF動作を自動的に切り換える：AIフォーカスAF

被写体の状態に応じて、「ワンショットAF」から「AIサーボAF」へと作動特性が自動的に切り換わります。

- ワンショットAFで被写体にピントを合わせたあと、被写体が連続して移動を始めると、その移動をカメラが検知して自動的にAIサーボAFに切り換わり、被写体の動きに追従してピントを合わせ続けます。

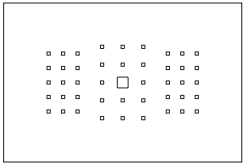
測距エリアとAFフレームを選択する

このカメラは自動ピント合わせを行うためのAFフレーム（測距点）を45点備えています。撮影シーンや被写体に応じて、測距エリア選択モードとAFフレームを選ぶことができます。

使用するレンズにより、使用可能な測距点の数や、測距パターン、エリアAFフレームの形などが異なります。

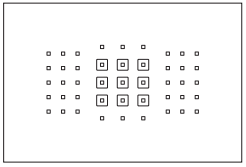
測距エリア選択モード

測距エリア選択モードを4種類の中から選ぶことができます。選択方法は、次ページを参照してください。



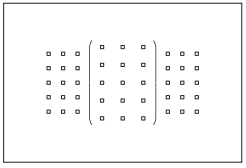
：1点AF（任意選択）

ピント合わせに使うAFフレーム1点を選択します。



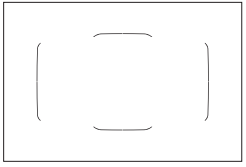
：ゾーンAF（ゾーン任意選択）

AF領域を9つの測距ゾーンに分けてピント合わせを行います。



：ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）

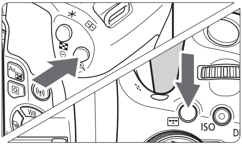
AF領域を左/中/右の3つの測距ゾーンに分けてピント合わせを行います。



：自動選択AF

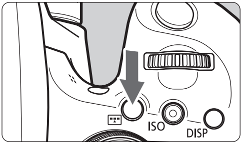
エリアAFフレーム（AF領域全体）でピント合わせを行います。

測距エリア選択モードを選ぶ



1 〈⊞〉または〈⊡〉ボタンを押す
（⏱6）

- ファインダーをのぞきながら、〈⊞〉または〈⊡〉ボタンを押します。

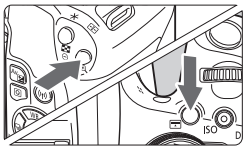


2 〈⊡〉ボタンを押す

- 〈⊡〉ボタンを押すたびに、測距エリア選択モードが切り換わります。

AFフレームを任意選択する

AFフレーム、またはゾーンを任意選択することができます。

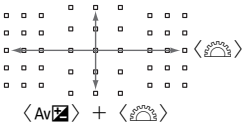


1 〈⊡〉または〈⊡〉ボタンを押す

（⏱6）

➡ ファインダー内にAFフレームが表示されます。

● ゾーンAF、ラージゾーンAFのときは、選択されているゾーンが表示されます。



2 AFフレームを選択する

● 〈⊡〉で横方向のAFフレームを選択することができます。

● 〈Av⊠〉ボタンを押しながら〈⊡〉を回すと縦方向のAFフレームを選択することができます。

● 〈(SET)〉を押すと、中央のAFフレーム（または中央のゾーン）が選択されます。

● ゾーン AF のときは、〈⊡〉を回すと、ゾーンが循環して切り換わります。

● 〈◀〉〈▶〉で横方向、〈▲〉〈▼〉で縦方向のAFフレームやゾーンを選択することもできます。

AFフレームの点灯／点滅について

〈⊡〉または〈⊡〉ボタンを押したときに、「点灯」しているAFフレームは、高精度なピント合わせができる「クロス測距点」です。「点滅」しているAFフレームは、横線または縦線を検出できる測距点です。

測距エリア選択モードの内容

□ 1点AF（任意選択）

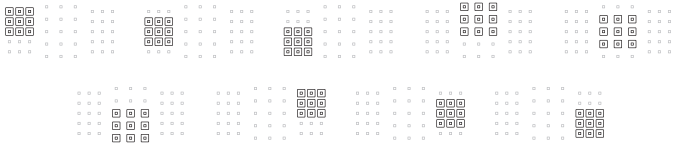
ピント合わせを行うAFフレームを1点〈□〉選択します。

⁘ ゾーンAF（ゾーン任意選択）

AF領域を9つの測距ゾーンに分けてピント合わせを行います。選択したゾーンの全AFフレームで自動選択AFを行うため、1点AFよりも被写体を捉えやすく、動きのある被写体を撮影するときにも有効です。

ただし、基本的に最も近距離にある被写体にピントを合わせるため、狙った位置にピントが合いにくいことがあります。

ピントが合ったAFフレームは、〈□〉で表示されます。



〔 〕ラージゾーンAF（ゾーン任意選択）

AF領域を左/中/右の3つの測距ゾーンに分けてピント合わせを行います。ゾーンAFよりも範囲が広く、選択したゾーンの全AFフレームで自動選択AFを行うため、1点AFよりも被写体を捉えやすく、動きのある被写体を撮影するときにも有効です。

ただし、基本的に最も近距離にある被写体にピントを合わせるため、狙った位置にピントが合いにくいことがあります。

ピントが合ったAFフレームは〈□〉で表示されます。

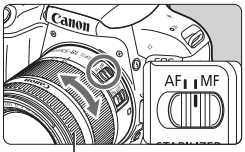
〔 〕自動選択AF

エリアAFフレーム（AF領域全体）でピント合わせを行います。ピントが合ったAFフレームは、〈□〉で表示されます。

ワンショットAFのときは、シャッターボタンを半押しすると、ピントの合ったAFフレーム〈□〉が表示されます。複数のAFフレームが表示されるときは、そのすべてにピントが合っています。基本的に最も近距離にある被写体にピントを合わせます。

AIサーボAFのときは、初めに任意選択（p.98）したAFフレーム〈□〉でピントを合わせます。ピントが合ったAFフレームは、〈□〉で表示されます。

MF: 手動でピントを合わせる（マニュアルフォーカス）



フォーカスリング

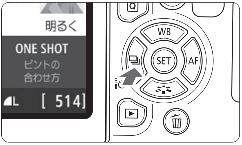
1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

2 ピントを合わせる

- ファインダー内の被写体がはっきり見えるまで、レンズのフォーカスリングを回します。

ドライブモードの選択

ドライブモードには1枚撮影と連続撮影があります。



1 〈◄〉ボタンを押す

➡ ［ドライブモード］が表示されます。

2 ドライブモードを選ぶ

● 〈◄〉〈►〉を押してドライブモードを選び、〈SET〉を押します。

：**1枚撮影**

シャッターボタンを全押しすると、1枚だけ撮影します。

：**高速連続撮影**（最高約6.0コマ／秒）

シャッターボタンを全押しすると、押している間、連続撮影します。

：**低速連続撮影**（最高約3.0コマ／秒）

シャッターボタンを全押しすると、押している間、連続撮影します。

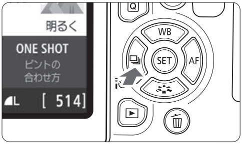
：**セルフタイマー：10秒/リモコン撮影**

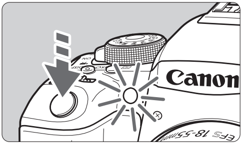
：**セルフタイマー：2秒**

：**セルフタイマー：連続撮影**

セルフタイマー撮影については103ページを参照してください。

ꈊセルフタイマー撮影





1 〈◄ꈊ 🅂〉ボタンを押す

➡ ［**ドライブモード**］が表示されます。

2 セルフタイマーを選ぶ

● 〈◄〉〈►〉を押してセルフタイマーを選び、〈SET〉を押します。

ꈊ：**10秒後に撮影**
リモコン撮影も可能

ꈊ2：**2秒後に撮影**

ꈊC：**10秒後、設定した枚数を連続撮影**
〈▲〉〈▼〉を押して、撮影する枚数（2～10）を設定します。

3 撮影する

● ファインダーをのぞいてピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。

➡ セルフタイマーランプと電子音、液晶モニターに表示される秒数の減算表示で作動を確認できます。

➡ 撮影の2秒前にセルフタイマーランプが点灯し、電子音が速く鳴ります。

4

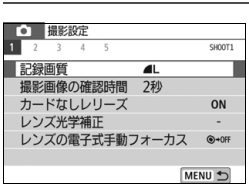
画像に関する設定

この章では、記録画質、ISO感度、ピクチャースタイル、ホワイトバランス、オートライティングオプティマイザ、ノイズ低減機能、フリッカー低減撮影など、画像に関係する機能設定について説明しています。

● ページタイトル右の 応用 は、応用撮影ゾーン（p.25）限定の機能であることを示しています。

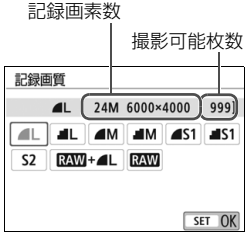
MENU 記録画質を設定する

記録する画素数と、その画質を選ぶことができます。記録画質は、◢L、◢L、◢M、◢M、◢S1、◢S1、S2、RAW+◢L、RAWの9種類です。



1 記録画質を選ぶ

- ［📷1］タブの［**記録画質**］を選び、〈(SET)〉を押します。
- ➡［**記録画質**］が表示されます。



2 記録画質を設定する

- 画面上に表示される「記録画素数」と、「撮影可能枚数」を目安に選び、〈(SET)〉を押します。

記録画質を選ぶときの目安

（約）

記録画質			記録画素数	ファイルサイズ（MB）	撮影可能枚数	連続撮影可能枚数
◢L	高画質	JPEG	24M	7.6	950	190（Full）
◢L				3.9	1840	Full（Full）
◢M	中画質		11M	4.1	1790	Full（Full）
◢M				2.0	3480	Full（Full）
◢S1	低画質		5.9M	2.6	2730	Full（Full）
◢S1				1.3	5260	Full（Full）
S2			3.8M	1.8	3810	Full（Full）
RAW＋◢L	高画質		24M	29.4+7.6	170	19（23）
RAW				29.4	210	21（27）

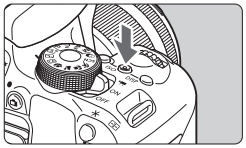
* ファイルサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数は、当社試験基準8GBカードを使用し、当社試験基準（アスペクト比3：2、ISO100、ピクチャースタイル：スタンダード）で測定したものです。**これらの数値は、被写体やカードの銘柄、アスペクト比、ISO感度、ピクチャースタイル、カスタム機能などの設定により変動します。**

* 連続撮影可能枚数の（　）内の数値は、〈□H〉高速連続撮影時の数値です。なお、（　）内の数値は、当社試験基準 UHS-I対応、16GBカード使用時の枚数です。

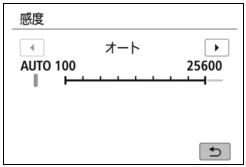
●「Full」と記載された条件のときは、カードの空き容量がなくなる（カードフル）まで撮影できます。

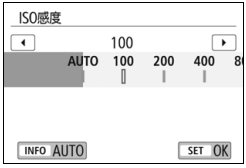
ISO: 静止画のISO感度を設定する 応用 ■

ISO感度（撮像素子の感度）は、撮影場所の明るさに応じて設定します。かんたん撮影ゾーンでは、ISO感度が自動設定されます。



1 〈ISO〉ボタンを押す（⏱6）





2 ISO感度を設定する

- ファインダー内または液晶モニターを見ながら〈◀〉〈▶〉または〈🎛〉でISO感度を選び、〈(SET)〉を押します。
- ISO感度は、ISO100～25600の範囲で設定することができます。
- ［AUTO］を選ぶと、ISO感度が自動設定されます。
- ［📷2：📷ISO感度］から設定するときは（左図）、〈INFO〉ボタンを押すと、［AUTO］に設定することができます。

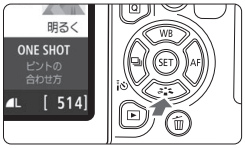
ISO感度を選ぶときの目安

ISO感度	撮影シーン（ストロボなし）	ストロボ撮影できる距離
100～400	晴天時の屋外	ISO感度の数値が大きいほど、ストロボ撮影できる距離が長くなります（p.125）。
400～1600	曇り空、夕方	
1600～25600、H	暗い屋内、夜景	

* ISO感度の数値が大きい（高ISO感度）ほど、画像のザラツキ感が増します。

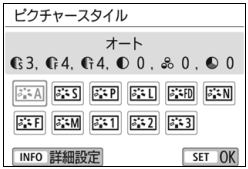
ピクチャースタイルを選択する 応用

ピクチャースタイルは、写真表現や被写体にあわせて、用意された項目を選ぶだけで効果的な画像特性が得られる機能です。



1 **〈▼ ピクチャースタイル〉ボタンを押す**

➡ スタイル選択画面が表示されます。



2 **スタイルを選ぶ**

● スタイルを選び、〈(SET)〉を押します。

➡ スタイルが設定されます。

［**3：ピクチャースタイル**］から設定することもできます。

各スタイルの画像特性について

A オート

撮影シーンに応じて、色あいが自動調整されます。特に自然や屋外シーン、夕景シーンでは、青空、緑、夕景が色鮮やかな写真になります。

［**オート**］で好みの色あいにならなかったときは、他のスタイルに変更して撮影してください。

S スタンダード

鮮やかで、くっきりした写真になります。通常はこの設定でほとんどのシーンに対応できます。

ポートレート

肌色がきれいで、ややくっきりした写真になります。人物をアップで写すときに効果的です。

［**色あい**］を変えると、肌色を調整することができます。

風景

青空や緑の色が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。印象的な風景を写すときに効果的です。

ディテール重視

被写体の細部の輪郭や繊細な質感の描写に適しています。やや鮮やかな写真になります。

ニュートラル

パソコンで画像処理するかた向けの設定です。自然な色あいで、メリハリの少ない控えめな写真になります。

忠実設定

パソコンで画像処理するかた向けの設定です。5200K（色温度）程度の環境光下で撮影した写真が、測色的に被写体の色とほぼ同じになるように色調整されます。メリハリの少ない控えめな写真になります。

モノクロ

白黒写真になります。

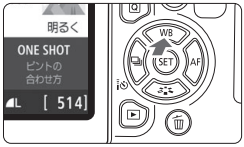
ユーザー設定1～3

［**ポートレート**］や［**風景**］、ピクチャースタイルファイルなどの基本スタイルを登録し、好みにあわせて調整することができます。登録されていないときは、［**オート**］の初期設定と同じ特性で撮影されます。

WB: 明かりにあわせて撮影する 応用

ホワイトバランス（WB）は、白いものを白く写すための機能です。通常はオート［AWB］（雰囲気優先）、［AWBw］（ホワイト優先）で適切なホワイトバランスが得られます。オートで自然な色あいにならないときは、光源別にホワイトバランスを選択したり、白い被写体を撮影して手動で設定します。

かんたん撮影ゾーンでは、［AWB］（雰囲気優先）に自動設定されます（〈🍴〉モード時は、［AWBw］（ホワイト優先））。



1 〈▲ WB〉ボタンを押す

➡［ホワイトバランス］が表示されます。

2 ホワイトバランスを選ぶ

- 項目を選び、〈SET〉を押します。
- 〈☀〉〈🏠〉〈☁〉〈☀〉〈▦〉を選んだときに表示される「約****K」（K：ケルビン）は、設定される色温度です。

［📷3：ホワイトバランス］から設定することもできます。

ホワイトバランスについて

人間の目には、照明する光が変化しても、白い被写体は白に見えるという順応性があります。デジタルカメラでは、照明光の色温度に応じて色の基準となる白を決め、ソフトウェア的に色あいを調整することで、自然な色あいで撮影することができます。

MENU 明るさ・コントラストを自動補正する 応用

撮影結果が暗いときや、コントラストが低いときに、明るさ・コントラストを自動的に補正することができます。この機能を「オートライティングオプティマイザ」といいます。初期状態では、［**標準**］に設定されています。JPEG画像は、撮影時に補正されます。

かんたん撮影ゾーンでは、［**標準**］に自動設定されます。

1 ［オートライティングオプティマイザ］を選ぶ

● ［📷2］タブの［**オートライティングオプティマイザ**］を選び、〈(SET)〉を押します。

2 補正内容を設定する

● 内容を選び〈(SET)〉を押します。

3 撮影する

● 必要に応じて、明るさ・コントラストが補正された画像が記録されます。

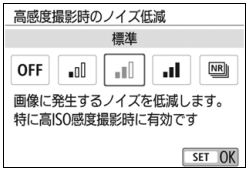
MENU ノイズ低減機能を設定する 応用

高感度撮影時のノイズ低減

画像に発生するノイズを低減することができます。すべてのISO感度で作動しますが、特に高ISO感度撮影時に有効です。低ISO感度撮影時は、低輝度部(暗部)のノイズをさらに低減することができます。ノイズの程度に応じて設定を変更します。

1 [高感度撮影時のノイズ低減] を選ぶ

● [4] タブの [**高感度撮影時のノイズ低減**] を選び、〈SET〉を押します。



2 レベルを設定する

● 低減レベルを選び〈SET〉を押します。

● [NR：マルチショットノイズ低減機能]

[**強め**] よりも高画質なノイズ低減処理が行われます。1回の撮影で4枚連続撮影し、自動的に画像の位置を合わせながら合成を行い、1枚のJPEG画像が記録されます。

なお、記録画質が RAW、RAW+L に設定されているときは、[**マルチショットノイズ低減機能**] は設定できません。

3 撮影する

● ノイズ低減処理が行われた画像が記録されます。

長秒時露光のノイズ低減

露光時間1秒以上で撮影した画像に対して、ノイズを低減することができます。

1 [長秒時露光のノイズ低減] を選ぶ

● [4] タブの [**長秒時露光のノイズ低減**] を選び、〈(SET)〉を押します。

2 低減内容を設定する

● 内容を選び〈(SET)〉を押します。

● **[自動]**

露光時間1秒以上で撮影した画像に対し、長秒時露光特有のノイズが検出された場合に自動低減処理が行われます。通常は、この設定で十分な効果が得られます。

● **[する]**

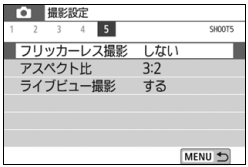
露光時間1秒以上で撮影した画像に対し、常に低減処理が行われます。[**自動**] で検出できないノイズがあったときに [**する**] で撮影すると、ノイズを低減できることがあります。

3 撮影する

● ノイズ低減処理が行われた画像が記録されます。

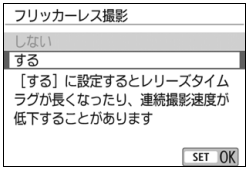
MENU フリッカーの影響を低減する 応用

蛍光灯などの光源下で、速いシャッター速度で撮影を行うと、光源の点滅（明滅）によるちらつき（フリッカー）により、画面の上下で露出差が生じたり、連続撮影を行ったときに写真に露出差や色あいの差が生じることがあります。ファインダー撮影時に、この機能を利用すると、カメラが光源の点滅周期を検知し、フリッカーによる露出や色あいへの影響が少ないタイミングで撮影することができます。



1 ［フリッカーレス撮影］を選ぶ

● ［5］タブの［**フリッカーレス撮影**］を選び、〈SET〉を押します。



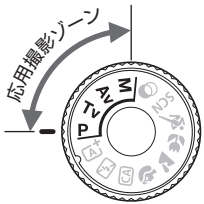
2 ［する］を選ぶ

3 撮影する

● フリッカーによる露出や色あいへの影響が低減された状態で撮影されます。

5

撮影目的にあわせた応用撮影



応用撮影ゾーンでは、シャッター速度や絞り数値を選択したり、露出を自分の好みに変えるなど、カメラの設定を思いどおりに変えることで、さまざまな撮影ができます。

- ページタイトル右の 応用 は、応用撮影ゾーン限定の機能であることを示しています。
- シャッターボタンを半押ししたあとで指を離しても、タイマーの働きにより、ファインダー内に露出値が約4秒間（⏱4）表示されます。

電子ダイヤルガイドについて

シャッター速度、絞り数値などを設定するときに表示される〈 〉は、〈 〉を回して設定することを示しています。

P: プログラムAE撮影

被写体の明るさに応じて、カメラがシャッター速度と絞り数値を自動的に設定します。これをプログラムAEといいます。

＊〈**P**〉は、Program（プログラム）の略です。

＊ AEは、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。

1 モードダイヤルを〈P〉にする

2 ピントを合わせる

- ファインダーをのぞいて、AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ピントが合うと、ファインダー内右下に合焦マーク〈●〉が点灯します（ワンショットAF時）。
- ➡ シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内に表示されます。

3 表示を確認する

- シャッター速度と絞り数値が点滅していなければ、標準露出です。

4 撮影する

- 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。

手順1で、撮影モードの説明が表示されたときは、〈(SET)〉を押すと説明が消えます（p.49）。

Tv：被写体の動きを表現する

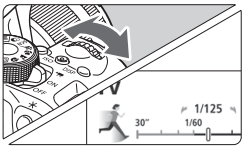
動きの速い被写体が止まっているような写真や、ブレているような写真、流れているような写真は、モードダイヤルの〈**Tv**〉（シャッター優先AE）を使って撮影します。

＊〈**Tv**〉は、Time value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。

流動感のある写真
（遅いシャッター速度：1/30秒）

動きを止めた写真
（速いシャッター速度：1/2000秒）

1 モードダイヤルを〈Tv〉にする



2 シャッター速度を設定する

● シャッター速度は、〈〉を右に回すと速くなり、左に回すと遅くなります。

3 撮影する

● ピントを合わせてシャッターボタンを全押しすると、設定したシャッター速度で撮影されます。

Av: ピントの合う範囲を変える

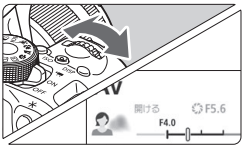
背景をぼかした写真や、手前から遠くまでピントの合った写真など、ピントの合う範囲を調整した写真は、モードダイヤルの〈**Av**〉(絞り優先AE)を使って撮影します。

＊〈**Av**〉は、Aperture value（アパチャーバリュー）の略でレンズの中に入っている「絞り」の開口量のことです。

背景をぼかした写真
（小さい絞り数値：F5.6）

背景にもピントの合った写真
（大きい絞り数値：F32）

1 モードダイヤルを〈Av〉にする



2 絞り数値を設定する

- 数値が大きいほどピントの合う範囲が前後に広く（深く）なります。
- 数値は、〈〉を右に回すと大きくなり(絞る)、左に回すと小さくなります(開ける)。

3 撮影する

- ピントを合わせてシャッターボタンを全押しすると、設定した絞り数値で撮影されます。

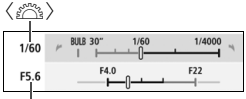
M: 露出を自分で決めて撮る

シャッター速度と絞り数値を自由に組み合わせて撮影することができます。露出は、ファインダー内の露出レベル表示を参考にして、自分で任意に決めます。これをマニュアル露出といいます。

＊〈**M**〉は、Manual（マニュアル）の略です。

1 モードダイヤルを〈M〉にする

2 ISO感度を設定する（p.108）



3 シャッター速度と絞り数値を設定する

- シャッター速度は、〈 〉を回して設定します。
- 絞り数値は、〈Av〉ボタンを押しながら〈 〉を回して設定します。

4 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ファインダー内に露出値が表示されます。
- 露出レベルマーク〈▮〉で、標準露出からどのくらいずれているか、確認することができます。

5 露出を決めて撮影する

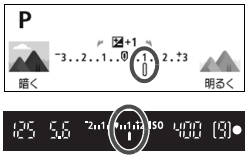
- 露出レベル表示を確認し、任意のシャッター速度、絞り数値を設定します。
- 標準露出から±2段を超えるときは、ファインダー内の露出レベル表示の端が〈◖〉または〈◗〉の表示になります（液晶モニターの露出レベル表示は、±3段を超えると、〈◖〉または〈◗〉の表示になります）。

自分の好みに明るさを調整する 応用

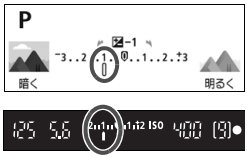
ストロボを使用しないときの撮影結果が、思いどおりの明るさになっていないときに使用します。この機能は、〈**M**〉以外の応用撮影ゾーンで使用できます。補正できる範囲は、1/3段ステップ±5段*です。

＊ ライブビュー撮影時／動画撮影時、または［**：撮影画面表示**］を［**やさしい**］に設定しているときは±3段までです。

明るく（プラス）補正



暗く（マイナス）補正



1 露出表示を確認する

● シャッターボタンを半押しして（⏱4）、ファインダー内または液晶モニターで露出レベル表示を確認します。

2 補正量を設定する

● 撮影結果が暗いときは、〈Av⊠〉ボタンを押しながら〈🌄〉を右に回します（プラス補正）。
撮影結果が明るいときは、〈Av⊠〉ボタンを押しながら〈🌄〉を左に回します（マイナス補正）。

3 撮影する

● 露出補正を解除するときは、補正量の設定を〈▮〉の位置に戻します。

MENU 明るさを自動的に変えて撮る 応用

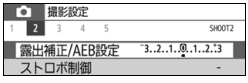
露出補正の応用機能で、1/3段ステップ±2段の範囲で、自動的に明るさの異なる3枚の写真を撮影し、あとで一番好ましい明るさの写真を選ぶことができます。

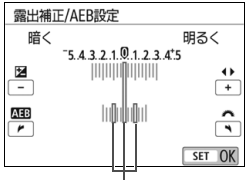
この機能を使った撮影のことを、AEB（Auto Exposure Bracketing：オートエクスポージャーブラケティング）撮影といいます。

標準露出

暗くなるよう補正
（マイナス補正）

明るくなるよう補正
（プラス補正）





AEBレベル

1 ［露出補正／AEB設定］を選ぶ

- ［📷2］タブの［露出補正／AEB設定］を選び、〈(SET)〉を押します。

2 AEBレベルを設定する

- 〈🎛〉を回すとAEBレベルが設定できます。
- 〈◀〉〈▶〉を押すと露出補正量が設定できます。AEBと併用するときは、露出補正値を中心にAEB撮影が行われます。
- 〈(SET)〉を押すと設定されます。
- 〈MENU〉ボタンを押してメニュー画面を終了すると、ファインダー内にAEBレベルが表示されます。

3 撮影する

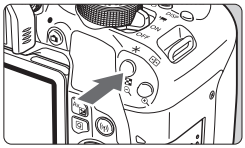
- ピントを合わせてシャッターボタンを全押しすると、標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。

✳ 明るさを固定して撮る 応用

ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに使用します。〈✳〉ボタンを押して露出を固定したあと、構図を変えて撮影します。これをAEロック撮影といいます。逆光下の撮影などで有効です。

1 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ 露出値が表示されます。



2 〈✳〉ボタンを押す（⏱4）

- ➡ ファインダー内に〈✳〉が表示され、露出が固定（AEロック）されます。
- 〈✳〉ボタンを押すたびに、そのときの露出がAEロックされます。

3 構図を決めて撮影する

- 続けてAEロック撮影をするときは、〈✳〉ボタンを押しながら、シャッターボタンを押します。

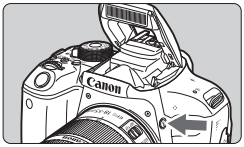
AEロックの効果

測光モード	AFフレーム選択（p.98）	
	自動選択	任意選択
⊙*	ピントを合わせたAFフレームを中心にした露出値でAEロック	選択されているAFフレームを中心にした露出値でAEロック
⊡ • ⊡	中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロック	

* レンズのフォーカスモードスイッチが〈**MF**〉のときは、中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロックされます。

ϟ 内蔵ストロボを使って撮る

室内や暗い場所、日中の逆光状態では、ストロボを上げてシャッターボタンを押すだけで、手軽にきれいな写真を撮ることができます。〈**P**〉では、手ブレしにくいシャッター速度（1/60～1/200秒）が自動設定されます。

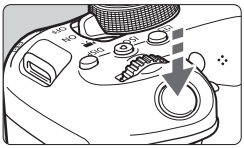


1 〈ϟ〉ボタンを押す

- 応用撮影ゾーンでは〈ϟ〉ボタンを押すと、いつでもストロボ撮影ができます。
- ストロボ充電中は、ファインダー内に「ϟbuSY」、液晶モニターに［**BUSY**ϟ］が表示されます。

2 シャッターボタンを半押しする

- ファインダーの左下に〈ϟ〉が表示されていることを確認します。



3 撮影する

- ピントを合わせてシャッターボタンを全押しすると、常にストロボが発光します。

内蔵ストロボ撮影できる距離の目安　（約・m）

ISO感度 (p.108)	EF-S18-55mm F4-5.6 IS STM	
	広角側	望遠側
	F4	F5.6
100	1～3	1～2.1
400	1～6	1～4.3
1600	1.5～12	1.1～8.6
6400	3～24	2.1～17.1

* 高ISO感度設定時に撮影距離が遠いとき、被写体条件などによっては、適正な露出が得られないことがあります。

6

液晶モニターを見ながら撮影する（ライブビュー撮影）

カメラの液晶モニターに表示される映像を見ながら撮影することができます。この撮影方法を「ライブビュー撮影」といいます。

● カメラを手に持って液晶モニターを見ながら撮影すると、手ブレにより、鮮明な画像が得られないことがあります。そのときは、三脚などの使用をおすすめします。

リモートライブビュー撮影について

EOS用ソフトウェアのEOS Utility(p.162)がインストールされたパソコンにカメラを接続すると、パソコンの画面を見ながらリモート撮影することができます。詳しくは、EOS Utility使用説明書を参照してください。

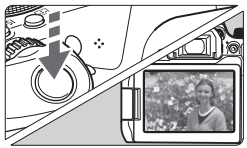
液晶モニターを見ながら撮影する

1 ライブビュー映像を表示する

- 〈📷〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。〈A+〉モード時は、画面の左上にカメラが判別したシーンアイコンが表示されます。
- ライブビュー映像は、実際の撮影結果に近い明るさで表示されます。

2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、設定されているAF方式（p.136）でピント合わせが行われます。
- 画面にタッチして人物の顔や被写体を選ぶこともできます（p.141）。



3 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- ➡ 撮影が行われ、液晶モニターに撮影した画像が表示されます。
- ➡ 表示が終わると、自動的にライブビュー撮影に戻ります。
- 〈📷〉ボタンを押すとライブビュー撮影が終了します。

MENU ライブビュー撮影ができないときは

［**5：ライブビュー撮影**］を［**する**］に設定します（かんたん撮影ゾーンでは［**1**］タブ）。

ライブビュー撮影時の撮影可能枚数の目安　（約・枚）

温度	常温（+23℃）	低温（0℃）
ストロボ撮影なし	310	270
50%ストロボ撮影	270	230

- 上記の撮影可能枚数は、フル充電のバッテリーパック LP-E17使用、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。
- フル充電のバッテリーパック LP-E17でライブビュー撮影できる時間は、常温（+23℃）：合計約2時間25分です。

⚠ **警告**

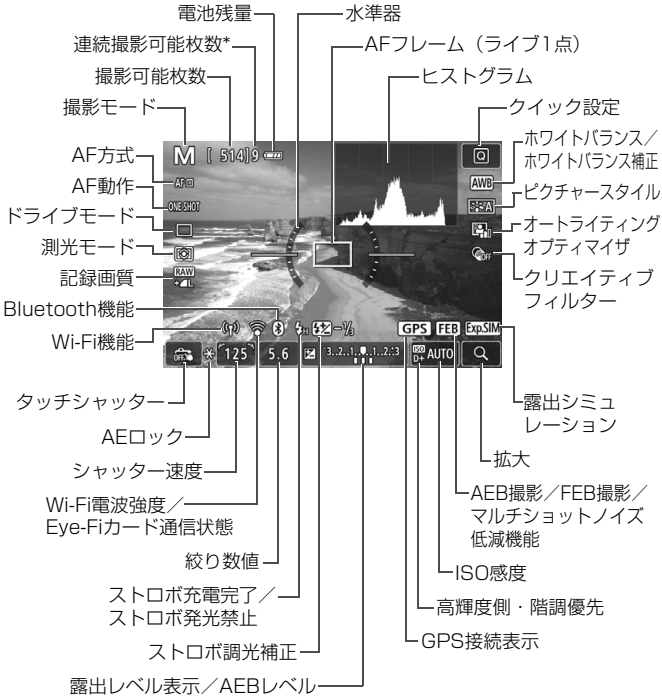
長時間、身体の同じ箇所に触れたまま使用しないでください。

熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因になる恐れがあります。気温の高い場所で使用する場合や、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使用する場合は、三脚などをお使いください。

カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。

情報表示について

●〈INFO〉ボタンを押すたびに、情報表示内容が切り換わります。



* 連続撮影できる枚数が9枚以下になると、数値が表示されます。

フィルター効果を付けて撮影する 応用

ライブビュー映像を見ながら、フィルター効果（7種類：ラフモノクロ／ソフトフォーカス／魚眼風／油彩風／水彩風／トイカメラ風／ジオラマ風）を付けた画像を撮影することができます。

保存される画像は、フィルター効果ありの画像のみです。フィルター効果なしで撮影を行い、撮影後に画像に効果を付けて別画像として保存することもできます。

1 モードダイヤルを応用撮影ゾーンにする

2 〈Q〉ボタンを押す（⏱10）

➡ クイック設定状態になります。

3 [OFF]を選ぶ

● 〈▲〉〈▼〉を押して画面の右側に表示された[OFF]（クリエイティブフィルター）を選びます。

4 フィルター効果を選ぶ

● 〈◄〉〈►〉を押してフィルター効果を選びます。

➡ フィルター効果が反映された映像が表示されます。

5 フィルター効果を調整する

- 〈INFO〉ボタンを押します（🖶を除く）。
- 〈◄〉〈►〉を押して効果を調整し、〈(SET)〉を押します。

6 撮影する

➡ フィルター効果が付いた画像が撮影されます。

ピント合わせの動作を変える 応用

撮影状況や被写体にあわせて、AF（Auto Focus：自動ピント合わせ）の作動特性を選ぶことができます。なお、かんたん撮影ゾーンでは、撮影モードごとに最適なAF動作が自動設定されます。

1 **〈Q〉ボタンを押す**

➡ クイック設定の状態になります。

2 **［ONE SHOT］を選ぶ**

● 〈▲〉〈▼〉を押して画面の左側に表示された［**ONE SHOT**］（AF動作）を選びます。

3 **AF動作を選ぶ**

● 〈◄〉〈►〉を押してAF動作を選び、〈(SET)〉を押します。
ONE SHOT：ワンショットAF
SERVO：サーボAF

4 **ピントを合わせる**

● AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しすると、設定したAF動作でピント合わせが行われます。

止まっている被写体を撮る：ワンショットAF

止まっている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると1回だけピント合わせを行います。

- 被写体にピントが合うと、AFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定され、構図を変えて撮影できます。
- ドライブモードが〈□ᴴ〉高速連続撮影に設定されているときは、連続撮影速度は最高約6.0コマ/秒です。
- ドライブモードが〈□〉低速連続撮影に設定されているときは、連続撮影速度は最高約3.5コマ/秒です。
- ストロボ撮影時は、連続撮影速度が低下します。〈□ᴴ〉〈□〉の設定に関わらず、連続撮影速度は同じになります（最高約2.0コマ/秒）。

動いている被写体を撮る：サーボAF

動いている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、被写体にピントを合わせ続けます。

- ドライブモードが〈□H〉高速連続撮影に設定されているときは、連続撮影速度は最高約4.5コマ/秒です。連続撮影速度優先で撮影されます。
- ドライブモードが〈□〉低速連続撮影に設定されているときは、連続撮影速度は最高約3.5コマ/秒です。被写体追従優先で撮影されます。
- ストロボ撮影時は、連続撮影速度が低下します。〈□H〉〈□〉の設定に関わらず、連続撮影速度は同じになります（最高約2.0コマ/秒）。
- 被写体にピントが合うと、AFフレームが青色に変わります。
- 露出は撮影の瞬間に決まります。
- [**AF方式**]が[**+追尾優先**]のときは、エリアAFフレームで被写体を捉えていれば、継続してピント合わせが行われます。

MENU AFでピントを合わせる

AF方式を選ぶ

撮影状況や被写体にあわせて、AF方式を選ぶことができます。AF方式には、［**(顔)+追尾優先**］（p.137）、［**スムーズゾーン**］（p.138）、［**ライブ1点**］（p.140）があります。

なお、厳密にピントを合わせたいときは、レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にしたあと、映像を拡大して手動ピント合わせを行ってください。

AF方式を選ぶ

- ［**5**］タブの［**AF方式**］で選びます（かんたん撮影ゾーンでは、［**2**］タブ）。
- AF方式を選び、〈(SET)〉を押します。
- ライブビュー映像表示中に〈Q〉ボタンを押すと、クイック設定でAF方式を選ぶこともできます。

（顔）＋追尾優先：AF

人の顔を検知してピント合わせを行います。顔が動くとAFフレーム〈 〉も動いて顔を追尾します。

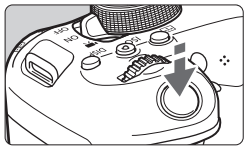
エリアAFフレーム

1 ライブビュー映像を表示する

- 〈 〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- ➡ エリアAFフレームが表示されます。

2 AFフレームを確認する

- 顔を検知すると、ピント合わせを行うAFフレーム〈 〉が顔の部分に表示されます。
- 複数の顔を検知しているときは〈 〉が表示されます。〈◀〉〈▶〉でピントを合わせたい顔に〈 〉を合わせます。
- 画面にタッチして、顔または被写体を選ぶこともできます。顔以外の被写体にタッチしたときは、AFフレームが〈 〉に変わります。



3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。
- ➡ 顔が検知できないときや、画面にタッチしなかったときは、エリアAFフレームの中でピント合わせが行われます。
- ➡ ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➡ ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わります。

4 撮影する

● ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.128）。

● **人の顔以外にピントを合わせるとき**

〈SET〉または〈🗑〉ボタンを押すと、画面中央にAFフレーム〈▭〉が表示され、〈✥〉十字キーでAFフレームを移動することができます。被写体にAFフレーム〈▭〉を合わせたあと、構図を変更したり、被写体が動いたりすると、AFフレーム〈▭〉も動いて被写体を追尾します。

スムーズゾーン：AF( )

選択したゾーンAFフレームでピント合わせを行います。[**ライブ1点**]よりもAF範囲が広くなります。

ゾーンAFフレーム

1 ライブビュー映像を表示する

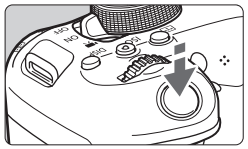
● 〈📷〉ボタンを押します。

➡ 液晶モニターに映像が表示されます。

➡ ゾーンAFフレームが表示されます。

2 AFフレームを選ぶ

- 〈✥〉十字キーでゾーンを選択します。〈(SET)〉または〈🗑〉ボタンを押すと、中央のゾーンに戻ります。
- 画面にタッチして、ゾーンAFフレームを移動することもできます。



3 ピントを合わせる

- ゾーンAFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➡ ピントが合わないときは、ゾーンAFフレームがオレンジ色に変わります。

4 撮影する

- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.128）。

ライブ1点：AF ロ

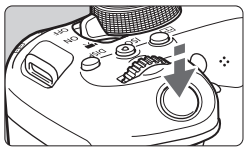
1点のAFフレームでピント合わせを行います。狙った被写体にピントを合わせたいときに効果的です。

1 ライブビュー映像を表示する

- 〈📷〉ボタンを押します。
- ➡ 液晶モニターに映像が表示されます。
- ➡ AFフレーム〈▭〉が表示されます。
- 動画撮影時、[**動画サーボAF**]が[**する**]に設定されているときは、AFフレームが大きく表示されます。

2 AFフレームを移動する

- 〈✣〉十字キーを押して、ピントを合わせたい位置にAFフレームを動かします（画面の一番端までは動きません）。
- 〈(SET)〉または〈🗑〉ボタンを押すと、AFフレームが画面中央に戻ります。
- 画面にタッチして、AFフレームを移動することもできます。



3 ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➡ ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わります。

4 撮影する

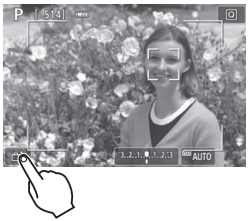
- ピントと露出を確認し、シャッターボタンを全押しして撮影します（p.128）。

タッチシャッターで撮影する

画面にタッチするだけで、ピント合わせから撮影まで自動で行うことができます。

1 ライブビュー映像を表示する

● 〈 〉ボタンを押します。
➡ 液晶モニターに映像が表示されます。



2 タッチシャッター機能を設定する

● 画面左下の［ ］にタッチします。タッチするたびに、［ ］と［ ］が交互に切り換わります。
● ［ ］（タッチシャッター：する）
タッチした位置にピントを合わせてから撮影が行われます。
● ［ ］（タッチシャッター：しない）
タッチした位置にピントを合わせることができます（タッチAF）。シャッターボタンを全押しして撮影します。

3 画面にタッチして撮影する

● 画面上の顔や被写体にタッチします。
➡ 設定されているAF方式（p.136～140）でタッチした位置でピント合わせが行われます。［**スムーズゾーン**］設定時は、［**ライブ1点**］に切り換わります。
➡ ピントが合うと、AFフレームが緑色に変わり、自動的に撮影されます。
● ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わり、撮影できません。もう一度、画面上の顔や被写体にタッチします。

7

動画を撮影する

電源スイッチを〈🎥〉にすると、動画撮影ができるようになります。

- 動画が記録できるカードについては、8ページを参照してください。
- カメラを手に持って動画撮影を行うと、手ブレにより、鮮明な映像が得られないことがあります。そのときは、三脚などの使用をおすすめします。

Full HD 1080について

Full HD 1080は、垂直画素（走査線）数：1080画素（本）のHD（High Definition：ハイディフィニション）映像に対応していることを示しています。

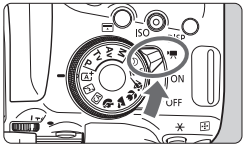
FULL HD 1080

動画を撮影する

撮影した動画は、カメラをテレビに接続して再生することをおすすめします。

自動露出で撮影する

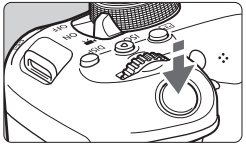
撮影モードが〈**M**〉以外のときは、明るさに応じて自動露出制御が行われます。



1 電源スイッチを〈🎥〉にする

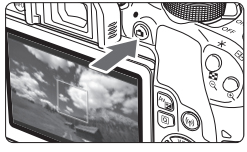
➡ ミラーが動く音がしたあと、液晶モニターに映像が表示されます。

2 モードダイヤルを〈SCN〉〈◎〉〈M〉以外にする

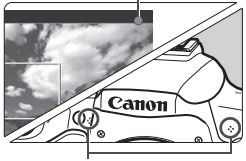


3 ピントを合わせる

- 動画撮影を始める前に、AFまたは手動でピントを合わせます（p.136～140）。
- 初期設定では、[**動画サーボAF：する**]に設定されていますので、常時ピント合わせが行われます。



動画撮影中



内蔵マイク

4 動画を撮影する

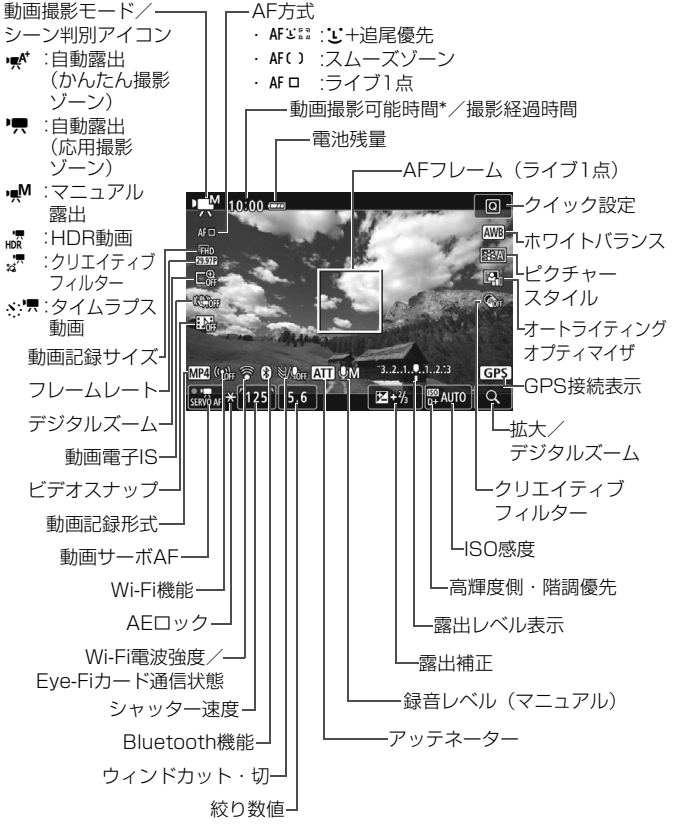
- 〈📷〉ボタンを押すと動画撮影が始まり、もう一度〈📷〉ボタンを押すと動画撮影が終わります。

➡ 動画撮影中は画面右上に「●」が表示されます。

➡ 音声は内蔵マイクで記録されます。

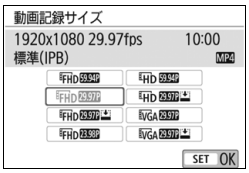
情報表示について

●〈INFO〉ボタンを押すたびに、情報表示内容が切り換わります。



* 1回の撮影可能時間です。

MENU 動画記録サイズの設定



［**1：動画記録サイズ**］で、動画記録サイズ（画像サイズ、フレームレート、圧縮方式）などを設定することができます。

MP4形式で記録されます。

● **画像サイズ**

FHD 1920×1080

フルハイビジョン（Full HD）画質で記録します。画面の横縦比は16：9です。

HD 1280×720

ハイビジョン（HD）画質で記録します。画面の横縦比は16：9です。

VGA 640×480

標準画質で記録します。画面の横縦比は4：3です。

● **フレームレート**（fps：frame per second）

29.97P 29.97fps／59.94P 59.94fps

テレビの映像方式が「NTSC」の地域（北米、日本、韓国、メキシコなど）で設定します。

25.00P 25.00fps／50.00P 50.00fps

テレビの映像方式が「PAL」の地域（ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど）で設定します。

23.98P 23.98fps

主に映画関連で使用します。

● **圧縮方式**

IPB **IPB**（標準）

複数のフレーム単位で効率的に圧縮して記録します。

IPB **IPB**（軽量）

さまざまな機器で再生できるように、ビットレートを低く抑えて記録するため、IPB（標準）よりもファイルサイズが小さくなります。そのため、IPB（標準）よりも撮影できる時間が長くなります。

⚠ **警告**

長時間、身体の同じ箇所に触れたまま使用しないでください。

熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因になる恐れがあります。気温の高い場所で使用する場合や、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使用する場合は、三脚などをお使いください。

8

知っていると便利な機能

- 電子音が鳴らないようにする（p.150）
- カードの入れ忘れを防止する（p.150）
- 撮影直後の画像表示時間を設定する（p.151）
- 電源が切れるまでの時間を設定する／オートパワーオフ（p.151）
- カメラの機能設定を初期状態に戻す（p.152）

普段使う上で便利な機能

MENU 電子音が鳴らないようにする

ピントが合ったときや、セルフタイマー撮影時、画面にタッチして操作したときに、電子音が鳴らないようにすることができます。

［**3**］タブの［**電子音**］を選び、〈(SET)〉を押します。［**切**］を選び〈(SET)〉を押します。

画面にタッチしたときの電子音だけを鳴らないようにするときは［**タッチ音切**］を選びます。

MENU カードの入れ忘れを防止する

カードが入っていないときに、撮影ができないようにすることができます。

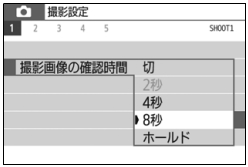
［**1**］タブの［**カードなしレリーズ**］を選び、〈(SET)〉を押します。［**しない**］を選び〈(SET)〉を押します。

カードを入れないでシャッターボタンを押すと、ファインダー内に「**Card**」が表示されてシャッターが切れません。

MENU 撮影直後の画像表示時間を設定する

撮影直後に液晶モニターに表示される画像の表示時間を変更することができます。[**切**] に設定すると、撮影直後に画像は表示されません。[**ホールド**] に設定すると、[**オートパワーオフ**] の時間まで画像が表示されます。

なお、画像表示中にシャッターボタン半押しなどのカメラ操作を行うと、表示が終了します。



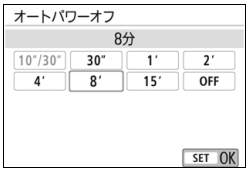
[**1**] タブの [**撮影画像の確認時間**] を選び、〈(SET)〉を押します。内容を選び〈(SET)〉を押します。

MENU 電源が切れるまでの時間を設定する／オートパワーオフ

カメラを操作しない状態で放置すると、節電のため設定されている時間で電源が自動的に切れます。この機能が働いて電源が切れたときは、シャッターボタンなどを押すと電源が入ります。

[しない] に設定したときは、節電のために電源をこまめに切るか、〈DISP〉ボタンを押して液晶モニターの表示を消すことをおすすめします。

なお、[しない] の設定でもカメラを約30分放置すると、液晶モニターが消灯します。液晶モニターを点灯するときは、〈DISP〉ボタンを押してください。



[**2**] タブの [**オートパワーオフ**] を選び、〈(SET)〉を押します。内容を選び〈(SET)〉を押します。

MENU カメラの機能設定を初期状態に戻す 応用

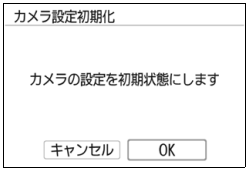
カメラの撮影機能や、メニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます。この操作は、応用撮影ゾーンで行うことができます。

1 ［設定解除］を選ぶ

● ［4］タブの［**設定解除**］を選び、〈(SET)〉を押します。

2 ［カメラ設定初期化］を選ぶ

● ［**カメラ設定初期化**］を選び〈(SET)〉を押します。



3 ［OK］を選ぶ

● ［OK］を選び〈(SET)〉を押します。

? こんなときは

● **すべての設定を初期状態に戻したい**

上記操作を行ったあと、［**4：設定解除**］で［**カスタム機能（C.Fn）一括解除**］を選ぶと、設定されているカスタム機能をすべて解除できます。

9

画像の再生

この章では、撮影した画像や動画の基本的な再生方法について説明しています。

他の機器で撮影・記録された画像について

他のカメラで撮影した画像や、このカメラで撮影したあとにパソコンなどで画像を加工したり、ファイル名を変更した画像は、カメラで正常に表示できないことがあります。

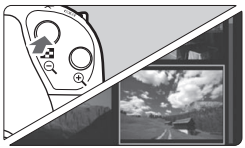
▶ 見たい画像を素早く探す

⊡ 一度に複数の画像を表示する（インデックス表示）

見たい画像を素早く見つけることができる、インデックス表示といわれる再生方法で、一度に4枚／9枚／36枚／100枚の画像を表示することができます。

1 画像を再生する

● 〈▶〉ボタンを押すと、最後に撮影した画像が表示されます。



2 インデックス表示にする

● 〈⊡·🔍〉ボタンを押します。
➡ 4枚表示になります。選択されている画像にオレンジ色の枠が付きます。
● さらに〈⊡·🔍〉ボタンを押すと、9枚→36枚→100枚表示になります。
● 〈🔍〉ボタンを押すと、100枚→36枚→9枚→4枚→1枚表示になります。

3 画像を選ぶ

● 〈✥〉十字キーで、オレンジ色の枠を移動させ、画像を選びます。
● 〈〉を回すと、1画面分先、または前の画像が表示されます。
● インデックス表示の状態で〈(SET)〉を押すと、選んだ画像が1枚表示されます。

画像を飛ばして表示する（ジャンプ表示）

1枚表示のときに〈 〉を回すと、指定した方法で前後に画像を飛ばして表示することができます。

1 [での画像送り]を選ぶ

- [▶2]タブの[での画像送り]を選び、〈(SET)〉を押します。

2 ジャンプ方法を選ぶ

- 〈✥〉十字キーで、ジャンプ方法を選び、〈(SET)〉を押します。

ジャンプ方法　再生位置

3 画像送りをする

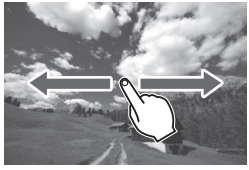
- 〈▶〉ボタンを押して画像を再生します。
- 1枚表示の状態で〈 〉を回します。

➡ 設定した方法で画像が送られます。

画面にタッチして再生する

液晶モニター（タッチパネル）に指で触れて、いろいろな再生を行うことができます。**まず、〈▶〉ボタンを押して画像を再生します。**

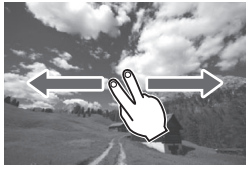
画像を送る



指1本でドラッグする

- 1枚表示のときは「**指1本**」で液晶モニターに触れます。指を左または右に動かすと1枚ずつ画像が送られます。
  左に動かすと新しい画像、右に動かすと古い画像が表示されます。
- インデックス表示のときも「**指1本**」で液晶モニターに触れます。指を上または下に動かすと1画面ずつ画像が送られます。
  上に動かすと新しい画像、下に動かすと古い画像が表示されます。
  画像を選んで、オレンジ色の枠が付いた画像にもう一度触れると、1枚表示になります。

画像を飛ばして表示する（ジャンプ表示）



指2本でドラッグする

液晶モニターに「**指2本**」で触れます。指を左または右に動かすと、[▶2] タブの [**での画像送り**] で設定されている方法で、画像を飛ばして表示することができます。

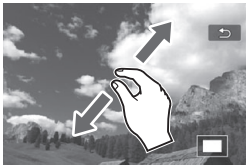
画像を縮小表示する（インデックス表示）

2本の指を閉じる

指2本を広げた状態で液晶モニターに触れ、触れたまま指を閉じます。

- 指を閉じるたびに、1枚表示からインデックス表示になります。
- 画像を選んでオレンジ色の枠が付いた画像にもう一度触れると、1枚表示になります。

画像を拡大表示する



2本の指を開く

指2本を閉じた状態で液晶モニターに触れ、触れたまま指を開きます。

- 指を開くたびに、拡大されます。
- 最大約10倍に拡大できます。

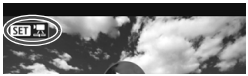
ダブルタップする

- 指でダブルタップすると、タッチした位置を中心に、記録画像の画素を約100%で表示します。
- もう一度ダブルタップすると、1枚表示に戻ります。

動画を再生する

1 画像を再生する

● 〈▶〉ボタンを押して画像を表示します。



2 動画を選ぶ

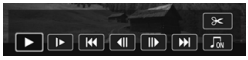
● 〈◀〉〈▶〉を押して再生する動画を選びます。

● 1枚表示のときに、画面左上に〈SET 🎥〉が表示されている画像が動画です。ビデオスナップで撮影した動画のときは〈SET 📷〉が表示されます。

● インデックス表示のときは、画面左側に縦帯の付いた画像が動画です。**インデックス表示からは再生できませんので、〈㊗〉を押して1枚表示にします。**

3 1枚表示の状態で〈㊗〉を押す

➡ 画面の下に動画再生パネルが表示されます。



4 動画を再生する

● [▶](再生)を選び〈㊗〉を押します。

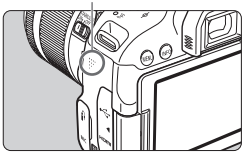
➡ 動画再生が始まります。

● 再生中に〈㊗〉を押すと、再生が一時停止します。

● 〈⚙〉を回すと、再生中でも音量を調整することができます。

● 再生操作に関する詳しい内容は、次ページを参照してください。

スピーカー



動画再生パネル

項目	再生内容
▶ 再生	〈(SET)〉を押すたびに再生／停止を繰り返します。
▶ スロー再生	〈◀〉〈▶〉を押すとスロー再生の速さを変えることができます。画面右上に速さの度合いが表示されます。
⏮ 先頭フレーム	動画の先頭画面を表示します。
◀II フレーム戻し	〈(SET)〉を押すたびに1コマ戻します。〈(SET)〉を押し続けると、早戻しします。
II▶ フレーム送り	〈(SET)〉を押すたびに1コマ送ります。〈(SET)〉を押し続けると、早送りします。
⏭ 最終フレーム	動画の最終画面を表示します。
♫ BGM選択*	音楽を選択し、音楽と一緒に動画を再生できます。
✂ 編集	編集画面を表示します。
▬▬	再生位置
mm'ss"	再生時間（mm'：分、ss"：秒）
音量	〈(dial)〉を回すと、内蔵スピーカー（p.158）の音量を調整することができます。
MENU ↩	〈MENU〉ボタンを押すと、1枚表示の状態に戻ります。

* BGMを設定すると、動画に録音されている音声は再生されません。

タッチパネルで再生する

画面中央の［▶］をタッチする

➡ 動画再生が始まります。

- 画面左上の〈SET〉をタッチすると、動画再生パネルが表示されます。
- 再生中に画面をタッチすると、再生が一時停止し、動画再生パネルが表示されます。

消去する

不要な画像を1枚ずつ選んで消去したり、まとめて消去することができます。なお、プロテクトをかけた画像は消去されません。

消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。また、大切な画像は、誤って消去しないようプロテクトをかけてください。RAW+JPEGで撮影した画像は、両方消去されます。

1枚ずつ消去

1 消去したい画像を再生する

2 〈🗑〉ボタンを押す

➡ 消去メニューが表示されます。

3 消去する

● [**消去**] を選び〈(SET)〉を押すと、表示されている画像が消去されます。

10

ソフトウェアスタートガイド／パソコンに画像を取り込む

この章では、次の項目について説明しています。

- EOS DIGITAL用に用意された各ソフトウェアの概要
- ソフトウェアのダウンロード/インストール方法
- ソフトウェア使用説明書（PDFファイル）のダウンロード方法と見かた
- パソコンに画像を取り込む方法

ソフトウェアスタートガイド

ソフトウェアの概要

EOS DIGITAL用各種ソフトウェアの概要を説明します。なお、ソフトウェアのダウンロード/インストールは、インターネットに接続して行います。インターネット非接続の環境では、ダウンロード/インストールはできません。

EOS Utility（イオス ユーティリティー）

カメラとパソコンを接続し、撮影画像（静止画／動画）のパソコンへの取り込み、カメラの各種設定、パソコン操作によるリモート撮影などを行うソフトウェアです。また、EOS Sample Music*などのBGMを、カードにコピーすることができます。

* カメラでビデオスナップアルバム、動画、スライドショーを再生するときのBGMとして楽しむことができます。

Digital Photo Professional（デジタル フォト プロフェッショナル）

RAW画像を撮影される方におすすめのソフトウェアです。RAW画像、JPEG画像の閲覧・編集・印刷などができます。

* OSが64bit版のパソコンにインストールされるバージョンと、32bit版のパソコンにインストールされるバージョンでは、一部機能が異なります。

Picture Style Editor（ピクチャー スタイル エディター）

ピクチャースタイルを編集し、オリジナルピクチャースタイルファイルの作成・保存ができます。画像処理上級者向けのソフトウェアです。

ソフトウェアのダウンロード/インストール

- **ソフトウェアをインストールする前に、カメラとパソコンを絶対に接続しないでください。ソフトウェアを正しくインストールできません。**
- 旧バージョンのソフトウェアがインストールされている場合も、下記の手順に従ってインストールしてください（上書きインストールされます）。

1 ソフトウェアをダウンロードする

- パソコンからインターネットに接続し、キヤノンの下記のWebサイトにアクセスしてください。

canon.jp/eos-sw

- ソフトウェアをダウンロードします。
- パソコン上で解凍します。

Windows ：表示されたインストーラーファイルをクリックすると、インストーラーが起動します。

Macintosh：dmgファイルが生成/表示されるので、次の手順でインストーラーを起動してください。

(1) dmgファイルをダブルクリックする
➡ デスクトップにドライブアイコンと、インストーラーファイルが表示されます。
インストーラーファイルが表示されないときは、ドライブアイコンをダブルクリックすると、インストーラーファイルが表示されます。

(2) インストーラーファイルをダブルクリックする
➡ インストーラーが起動します。

2 画面の指示に従って、インストールする

ソフトウェア使用説明書（PDFファイル）のダウンロードと見かた

ソフトウェア使用説明書（PDFファイル）のダウンロードは、インターネットに接続して行います。インターネット非接続の環境では、ダウンロードはできません。

1 ソフトウェア使用説明書（PDFファイル）をダウンロードする

- インターネットに接続し、キヤノンの下記のWebサイトにアクセスしてください。

canon.jp/eos-sw-manual

2 ソフトウェア使用説明書（PDFファイル）を見る

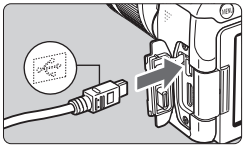
- ダウンロードした使用説明書（PDFファイル）をダブルクリックすると、ファイルが開きます。
- 使用説明書（PDFファイル）を見るためには、Adobe Acrobat Reader DCなどのAdobe社製PDF閲覧用ソフトウェア（最新版推奨）が必要です。
- Adobe Acrobat Reader DCはインターネット上から無料でダウンロードできます。
- PDF閲覧用ソフトウェアの使い方については、そのソフトウェアのヘルプなどを参照してください。

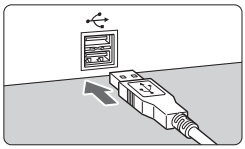
パソコンに画像を取り込む

EOS用のソフトウェアを使って、カメラで撮影した画像をパソコンに取り込むことができます。パソコンに取り込む方法は、2通りあります。

カメラとパソコンを接続して画像を取り込む

1 ソフトウェアをインストールする
(p.163)





2 インターフェースケーブル（別売）で、カメラとパソコンを接続する

- カメラ側を接続するときは、プラグの〈⇔〉が、カメラの前面に向くようにして、デジタル端子に差し込みます。
- パソコンのUSB端子にプラグを差し込みます。

3 EOS Utility を使って画像を取り込む

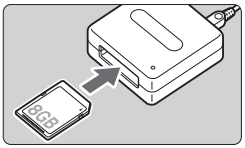
- EOS Utility使用説明書を参照してください。

Wi-Fi接続中は、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続することはできません。

カードリーダーで画像を取り込む

カードリーダーを使って、画像をパソコンに取り込むことができます。

1 ソフトウェアをインストールする
(p.163)



2 カードリーダーにカードを差し込む

3 Digital Photo Professionalを使って画像を取り込む

- Digital Photo Professional使用説明書を参照してください。

EOS用ソフトウェアを使わずに、カードリーダーを使って画像を取り込むときは、カード内の「DCIM」フォルダをパソコンにコピーしてください。

商標について

- Adobeは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- Microsoft、Windowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Macintosh、Mac OSは、米国およびその他の国で登録されているApple Inc.の商標です。
- SDXCロゴは、SD-3C, LLC.の商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- DCF*は、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。DCFロゴマークは、（社）電子情報技術産業協会の「Design rule for Camera File System」の規格を表す団体商標です。
- Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、キヤノン株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。
- その他の社名、商品名などは、各社の商標または登録商標です。

＊ DCF は、主としてデジタルカメラの画像を関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として制定された（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。

妨害電波自主規制について

この装置（カメラ）は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書（本書）に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

MPEG-4使用許諾について

"This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard."

* 規定により英語で表記しています。

第三者のソフトウェアについて

本製品には、以下に示す第三者のソフトウェアが含まれています。

●expat.h

Copyright (c) 1998, 1999, 2000 Thai Open Source Software Center Ltd

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

アクセサリーは、キヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。
なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品の修理対応期間は、製品製造打切り後7年間です。なお、弊社の判断により、修理対応として同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応OSが変更になることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示の上、十分な梱包でお送りください。

索 引

英数字

10秒後/2秒後撮影 103
1280×720（動画） 146
1920×1080（動画） 146
1点AF 96
1枚撮影 102
1枚表示 90
640×480（動画） 146
A+（シーンインテリジェントオート） 66
AEB 123
AEロック 124
AF
　AF動作 94, 133
　AFフレーム 96
　AFフレーム選択 98
　AF方式 136
　エリアAFフレーム ... 96, 100, 137
　構図変更 69
　手動ピント合わせ 101
　測距エリア選択モード ... 96, 97, 99
　電子音 150
　ピンボケ 44
AI FOCUS（AIフォーカスAF） 95
AI SERVO（AIサーボAF） 69, 95
ALL-I 8
Av（絞り優先AE） 120
CA（クリエイティブオート） 71
DISPボタン 21, 62, 151
Full HD（動画） 143, 146
HDR逆光補正 83
HD（動画） 146
INFOボタン 90, 130, 145
IPB（軽量） 147
IPB（標準） 147
ISO感度 108
JPEG（ジェイペグ） 107
M（マニュアル露出） 121
MENU マーク 10
MF（手動ピント合わせ） 101
MP4 146
NTSC 146
ONE SHOT（ワンショットAF） 95, 134
P（プログラムAE） 118
PAL 146
Q（クイック設定） 52, 86
RAW+JPEG 106, 107
RAW（ロウ） 106, 107
SD、SDHC、SDXCカード →カード
Tv（シャッター優先AE） 119
USB（デジタル）端子 165
WB（ホワイトバランス） 111

あ

アイピースカバー 29
アクセサリーシュー 21
アクセスランプ 34
色あい 79, 80
色温度 111
インデックス表示 154
液晶モニター 19, 35
　角度調整 35
　画像の再生 90, 153
　水準器 63
　メニュー表示 54
エリアAFフレーム 96, 100, 137
エリア（地域） 38
応用撮影ゾーン 25
応用 マーク 10
オートパワーオフ 36, 151
オートフォーカス →AF
オートライティングオプティマイザ ... 112
音量（動画再生） 159

か

カード……8, 20, 33, 61
　書き込み禁止……33
　初期化（フォーマット）……61
カードなしレリーズ……150
各部の名称……21
画像
　インデックス表示……154
　再生……90, 153
　ジャンプ表示（画像送り）……155
　消去……160
　表示時間……151
画素数……106
カメラ
　構え方……44
　設定初期化……152
かんたん撮影ゾーン……24
感度 → ISO感度
キッズ……78
機能ガイド……50
キャンドルライト……80
記録画質……106
近接撮影……74
クイック設定……52, 86
クリエイティブオート……71
クリエイティブフィルター……84, 131
クローズアップ……74
ケーブル……165
言語……41
高感度撮影時のノイズ低減……113
合焦マーク……66
高速連続撮影……102

さ

サーボAF
　AI SERVO（AIサーボAF）……95
　SERVO（サーボAF）……135
再生……90, 153
撮影画像の確認時間……151
撮影可能枚数……37, 107, 129
撮影画面表示……46
撮影のヒント……51
撮影モード……24
　Av（絞り優先AE）……120
　M（マニュアル露出）……121
　P（プログラムAE）……118
　Tv（シャッター優先AE）……119
　（シーンインテリジェントオート）……66
　（ストロボ発光禁止）……70
　（クリエイティブオート）……71
　（ポートレート）……72
　（風景）……73
　（クローズアップ）……74
　（スポーツ）……75
　SCN（スペシャルシーン）……76
　　（集合写真）……77
　　（キッズ）……78
　　（料理）……79
　　（キャンドルライト）……80
　　（夜景ポートレート）……81
　　（手持ち夜景）……82
　　（HDR逆光補正）……83
　（クリエイティブフィルター）……84
撮影モードガイド……49
サマータイム……40
三脚ねじ穴……22
シーンインテリジェントオート……66
自動選択AF……96, 100
視度調整……44
絞り優先AE……120
シャッターボタン……45
シャッター優先AE……119
ジャンプ表示……155
集合写真……77
充電……30
縮小表示……154
手動ピント合わせ……101

消去（画像）.....160
初期化（フォーマット）.....61
初期状態.....152
白黒写真.....110
シンクロ接点.....21
水準器.....63
ストラップ.....29
ストロボ
　撮影できる距離.....125
　内蔵ストロボ.....125
　発光禁止.....70, 87, 88
スピーカー.....158
スペシャルシーン（SCN）.....76
スポーツ.....75
スムーズゾーン.....138
スモール（記録画質）.....23
設定初期化.....152
セルフタイマー.....103
全押し.....45
ゾーンAF.....96
測距エリア選択モード.....96
測距点（AFフレーム）.....96
測距点自動選択.....96, 100
ソフトウェア.....162

た

タッチ音.....150
タッチシャッター.....141
タッチ操作.....58
タッチパネル.....58, 156
チャージャー.....27, 30
長秒時露光のノイズ低減.....114
低速連続撮影.....102
デジタル端子.....21
手ブレ.....44
手持ち夜景.....82
電源
　オートパワーオフ.....151
　撮影可能枚数.....37, 107, 129
　充電.....30
　電池残量.....37
電子音.....150
電子ダイヤル.....21, 117
電池.....30, 32, 37
動画.....143
　AEロック.....124
　圧縮方式.....147
　再生.....158
　自動露出.....144
　情報表示.....145
　動画記録サイズ.....146
　フレームレート.....146
　マイク.....144
ドライブモード.....23, 102, 103
ドラッグ.....59

な

内蔵ストロボ.....125
任意選択（AF）.....98
ノイズ低減
　高感度.....113
　長秒時.....114
ノーマル（記録画質）.....23

は

バッテリー.....30, 32, 37
バリアングル液晶モニター.....35
半押し.....45
ピクチャースタイル.....109
日付／時刻.....38
表示レベル.....46
ピント合わせ →AF
ファイルサイズ.....107

ファインダー 26
視度調整 44
水準器 63
ファイン（記録画質） 23
風景 73, 110
フォーカスモードスイッチ 42, 101
フォーカスロック 69
フォーマット（カード初期化） 61
付属品 3
ブラケティング 123
フリッカーレス撮影 115
フルハイビジョン
(Full HD) 143, 146
フレームレート 146
プログラムAE 118
ポートレート 72, 110
ホワイトバランス 111

ま

マイク 144
マクロ撮影 74
マニュアルフォーカス 101
マニュアル露出 121
マルチショットノイズ低減機能 113
ミドル（記録画質） 23
メニュー 54
設定操作 55
表示レベル 46
メニュー表示 48
メモリーカード →カード
モードダイヤル 24
モノクロ写真 110

や

夜景 81, 82
夜景ポートレート 81

ら

ラージ（記録画質） 23
ラージゾーンAF 96
ライブビュー撮影 127
AF動作 133
顔+追尾優先 137
クリエイティブフィルター 131
撮影可能枚数 129
情報表示 130
スムーズゾーン 138
ライブ1点 140
料理 79
レンズ 20, 42
ロック解除 43
連続撮影可能枚数 107
連続撮影（連写） 102
ロウ 23, 107
露出補正 122
露出レベル表示 26

わ

ワンショットAF 95, 134

Canon

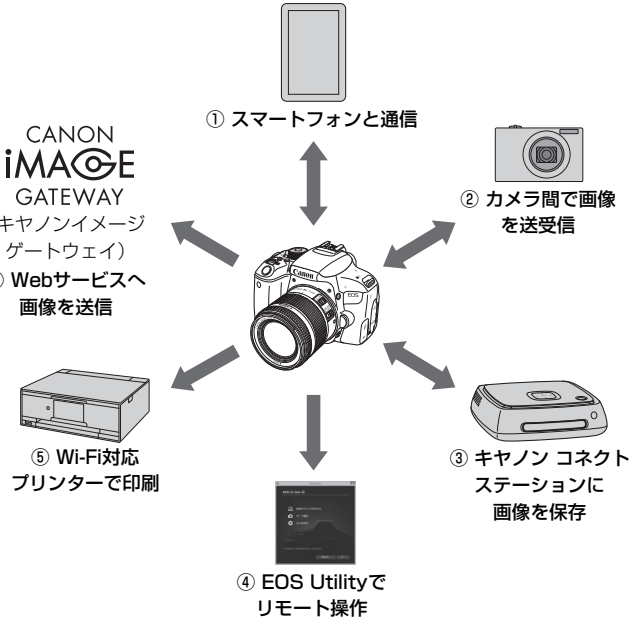
EOS Kiss X9i

Wi-Fi（無線通信）機能 使用説明書（基本編）

Wi-Fi（無線通信）機能 使用説明書（基本編）では、簡単に使うことができる「スマートフォンと通信」の基本的な使い方を説明しています。

はじめに

Wi-Fi®（無線通信）機能でできること



① **スマートフォンと通信**（p.W-9、W-23、W-31）
スマートフォンやタブレットにWi-Fi接続して、専用アプリケーション「Camera Connect（カメラコネクト）」を使ってカメラをリモート操作したり、カメラ内の画像を見ることができます。
なお、本書およびカメラの液晶モニターに表示される画面では、スマートフォンとタブレットをあわせて「スマートフォン」と記載しています。

② **カメラ間で画像を送受信**
無線通信機能を内蔵したキヤノン製のカメラ同士をWi-Fi接続して、画像を送受信することができます。

③ **コネクトステーションに画像を保存**
コネクトステーション（別売）にカメラをかざしてWi-Fi接続し、画像を保存することができます。

④ **EOS Utilityでリモート操作**
パソコンにWi-Fi接続して、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使ってカメラをリモート操作することができます。

⑤ **Wi-Fi対応プリンターで印刷**
Wi-Fiで使えるPictBridge（Wireless LAN）に対応したプリンターにWi-Fi接続して、画像を印刷することができます。

⑥ **Webサービスへ画像を送信**
キヤノンユーザーのためのオンラインフォトサービス CANON iMAGE GATEWAY（登録無料）を通じて、家族や友人との画像共有や、さまざまなWebサービスを利用した画像共有を行うことができます。

- コネクトステーションは、最新のファームウェアにバージョンアップしてください。
- CANON iMAGE GATEWAYのWebサービスは、国/地域によっては対応していない場合があります。対応している国/地域の情報は、キヤノンのWebサイト（www.canon.com/cig）でご確認ください。

Bluetooth®機能を使用したWi-Fi接続

このカメラはBluetooth low energy technology*に対応しているスマートフォンと簡単にWi-Fi接続することができます。詳しくは、W-9ページを参照してください。

* 以降は「Bluetooth」と記載しています。

NFC機能を使用したWi-Fi接続

このカメラは、スマートフォンやコネクトステーション（別売）と簡単にWi-Fi接続ができる、NFC（Near Field Communication：近距離無線通信）に対応しています。詳しくは、W-23ページを参照してください。

〈(ᵠ)〉ボタンを使用したWi-Fi接続

このカメラは、〈(ᵠ)〉ボタンでWi-Fi機能のメニューを表示して、Wi-Fi接続を行うことができます。詳しくは、W-31ページを参照してください。

使用説明書について

詳しい使い方については、Webからダウンロードできる使用説明書を参照してください。ダウンロード方法は、4ページを参照してください。

- このカメラを使用するために、誤った無線通信の設定を行った結果生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。また、このカメラを使用した結果生じた損害に対しても、弊社では補償できませんので、併せてご了承ください。
- 無線通信機能を使用する際には、お客様の責任と判断で必要なセキュリティーを設定してご使用ください。不正侵入等によって生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。

目　次

はじめに　W-2

Wi-Fi（無線通信）機能でできること……W-2
Wi-Fi 設定を行う……W-6
スマートフォンの事前準備……W-8

1　Bluetooth 対応スマートフォンと Wi-Fi 接続する　W-9

Bluetooth 接続について……W-10
Bluetooth 接続する……W-11
Wi-Fi 接続する……W-15
スマートフォンでカメラを操作する……W-18
カメラからスマートフォンに画像を送信する……W-20

2　NFC 対応スマートフォンと Wi-Fi 接続する　W-23

NFC 対応スマートフォンとの Wi-Fi 接続について……W-24
Wi-Fi 接続する……W-25
カメラからスマートフォンに画像を送信する……W-28

3　〈(ᵞ)〉ボタンでスマートフォンと Wi-Fi 接続する　W-31

Wi-Fi 接続する……W-32
2 回目以降の Wi-Fi 接続……W-37
無線通信機能について……W-39
索　引……W-41

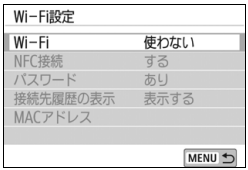
故障かなと思ったときや、主な仕様は、Webからダウンロードできる使用説明書を参照してください。ダウンロード方法は、4ページを参照してください。

Wi-Fi設定を行う

最初に以下の手順でWi-Fi設定を行います。

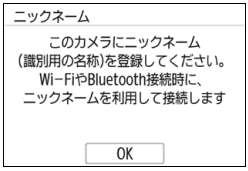
1 〈((•))〉ボタンを押す

2 ［Wi-Fi設定］を選ぶ



3 ［Wi-Fi］を選ぶ

4 ［使う］を選ぶ



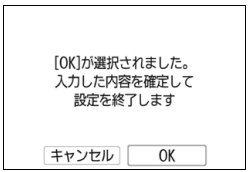
5 [ニックネーム] を登録する

● 左の画面が表示されたら〈(SET)〉を押します。

➡ 左の画面が表示されます。

● 表示されているニックネームを使用するときは〈MENU〉ボタンを押します。

● 1～8文字以内で、好きな文字を入力することもできます。入力が終わったら〈MENU〉ボタンを押します。



6 設定を終了する

● 左の画面が表示されたら [OK] を選んで〈(SET)〉を押します。

● 〈MENU〉ボタンを押すと、〈((ᵖ))〉ボタンを押したときの画面に戻ります。

スマートフォンの事前準備

スマートフォンと接続するためには、AndroidまたはiOSがインストールされたスマートフォンが必要です。また、スマートフォンに専用アプリケーションのCamera Connect（無料）をインストールする必要があります。

- Camera Connectは、Google PlayまたはApp Storeからインストールすることができます。Google PlayまたはApp Storeは、スマートフォンとの接続時に表示されるQRコードからもアクセスできます（p.W-12、W-33）。

- Camera Connectが対応しているOSのバージョンについては、Camera Connectのダウンロードサイトでご確認ください。
- Camera Connectをインストールする前に、NFC対応のスマートフォンをカメラにタッチすると、スマートフォンにCamera Connectのダウンロード画面が表示されます。
- カメラやCamera Connectの画面表示と機能は、カメラのファームウェアアップデートやCamera Connect、Android、iOSなどのバージョンアップにより変更される可能性があります。そのため、本書に記載している画面例や操作説明と異なることがあります。

1

Bluetooth 対応スマートフォンと Wi-Fi 接続する

ここではBluetooth対応スマートフォンとWi-Fi接続する方法を説明します。

スマートフォンとWi-Fi接続して、以下のことができます。

- スマートフォンでカメラ内の画像を閲覧したり、閲覧した画像をスマートフォンに保存する
- スマートフォンでカメラを操作して撮影したり、カメラの設定を変更する
- カメラからスマートフォンに画像を送信する

- あらかじめ、スマートフォンにCamera Connectをインストールしてから接続設定を行ってください（p.W-8）。
- NFC対応のスマートフォンとWi-Fi接続するときは、『NFC対応スマートフォンとWi-Fi接続する』（p.W-23）を参照してください。
- BluetoothやNFCに対応していないスマートフォンとWi-Fi接続するときは、『〈(ψ)〉ボタンでスマートフォンとWi-Fi接続する』（p.W-31）を参照してください。

Bluetooth接続について

カメラとBluetooth対応スマートフォンをBluetooth接続すると、カメラまたはスマートフォンだけの操作でWi-Fi接続することができます。

なお、カメラとスマートフォンをBluetooth接続するには、カメラとスマートフォンのペアリングが必要です。ペアリングはBluetooth接続の手順として行います。

Bluetooth接続する

カメラとスマートフォンのBluetooth接続は、Camera Connectの『かんたん接続ガイド』に従って操作するか、以下の手順で行います。

あらかじめ［**Wi-Fi設定**］画面で［**Wi-Fi**］を［**使う**］に設定しておいてください（p.W-6）。

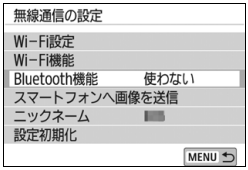
カメラ側の操作-1

1 ［機能設定］タブを選ぶ

- 〈MENU〉ボタンを押してメインタブを表示します。
- ［**機能設定**］タブを選んで〈(SET)〉を押します。

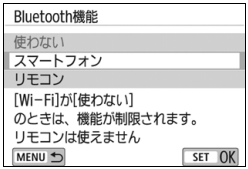
2 ［無線通信の設定］を選ぶ

- ［1］タブの［**無線通信の設定**］を選んで〈(SET)〉を押します。



3 ［Bluetooth機能］を選ぶ

4 ［Bluetooth機能］を選ぶ

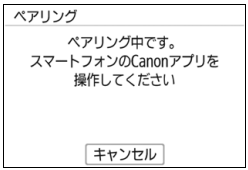


5 [スマートフォン] を選ぶ

6 [ペアリング] を選ぶ

7 [表示しない] を選ぶ

- Camera Connectをインストール済みのときは［**表示しない**］を選んで〈(SET)〉を押します。
- Camera Connectがインストールされていないときは、左の画面で［**Android**］または［**iOS**］を選んで表示されるQRコードをスマートフォンで読み取り、Google PlayまたはApp Storeにアクセスして Camera Connect をインストールします。



➡ 左の画面が表示され、ペアリングが開始されます。

スマートフォン側の操作

8 スマートフォンのBluetooth機能をONにする

9 Camera Connectを起動する

10 ペアリングするカメラを選ぶ

- ペアリングするカメラのニックネームをタッチします。

iOSの場合

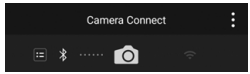
- 左の画面が表示されたら［**ペアリング**］をタッチします。

カメラ側の操作-2

11 **［OK］を選ぶ**

12 **〈(SET)〉を押す**

- ペアリングが完了して、スマートフォンとBluetooth接続されます。
- ➡ Camera ConnectにBluetooth接続中の図が表示されます。



Bluetooth接続中に、カメラを操作してスマートフォンへ画像を送信することができます。詳しくはW-20ページを参照してください。

Wi-Fi接続する

カメラとスマートフォンがBluetooth接続されたら、以下の手順でWi-Fi接続します。

あらかじめ［**Wi-Fi設定**］画面で［**Wi-Fi**］を［**使う**］に設定しておいてください（p.W-6）。

1 Camera Connectの機能を選ぶ

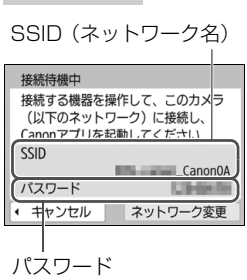
- 使用したいCamera Connectの機能を選びます。
- Camera Connectの機能については W-18ページを参照してください。

Androidの場合

- 自動的にWi-Fi接続されます。

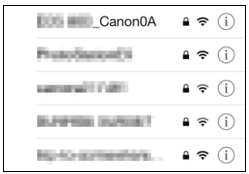
➡ Wi-Fi接続が完了すると、選んだ機能の画面が表示されます。

iOSの場合



2 SSIDとパスワードを確認する

- カメラに表示されたSSID（ネットワーク名）とパスワードを確認します。

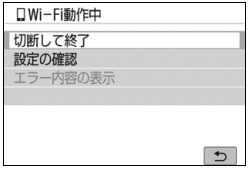


3 スマートフォンを操作してWi-Fi接続する

- スマートフォンのWi-Fi機能の画面から、手順2で確認したSSIDを選びます。
- パスワード欄には、手順2で確認したパスワードを入力します。なお、次回のWi-Fi接続より、パスワードの入力は不要になります。
- Camera Connectを表示します。

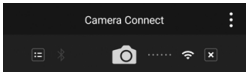
➡ Wi-Fi接続が完了すると、選んだ機能の画面が表示されます。

Android、iOS共通



➡ カメラの液晶モニターに［Wi-Fi動作中］画面が表示されます。

➡ Camera ConnectにWi-Fi接続中の図が表示されます。



これでBluetooth対応スマートフォンとのWi-Fi接続は完了です。

- Wi-Fi接続を終了する方法は、『Wi-Fi接続を終了する』を参照してください（p.W-19）。
- Wi-Fi接続を終了するとBluetooth接続に切り換わります。

［Wi-Fi動作中］画面について

［切断して終了］

- Wi-Fi接続を終了します。

［設定の確認］

- 設定の内容が確認できます。

［エラー内容の表示］

- Wi-Fi接続でエラーが発生したときに、エラー内容を確認できます。

〈MENU〉ボタンを押すと、メニューに切り換わります。

スマートフォンでカメラを操作する

スマートフォンにインストールしたCamera Connectを使用して、カメラ内の画像を閲覧したり、リモート撮影などを行うことができます。

Camera Connectのメイン画面

Camera Connectでは、主に下記の操作を行うことができます。

[カメラ内の画像一覧]

- カメラ内の画像を閲覧することができます。
- スマートフォンにカメラ内の画像を保存することができます。
- カメラ内の画像に対し、削除などの操作を行うことができます。

[リモートライブビュー撮影]

- カメラのライブビュー映像を、スマートフォンで見ることができます。
- リモート操作で撮影することができます。

[位置情報]

- このカメラでは使用できません。

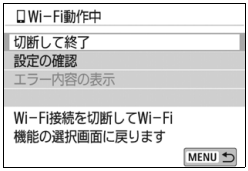
[カメラ設定]

- カメラの設定を変更することができます。

Wi-Fi接続を終了する

Wi-Fi接続を終了するときは、下記のいずれかの操作を行ってください。

スマートフォンのCamera Connect画面で[×]をタッチする



カメラの［Wi-Fi動作中］画面で［切断して終了］を選ぶ

- ［**Wi-Fi動作中**］画面が表示されていないときは、〈(ᵞ)〉ボタンを押します。
- ［**切断して終了**］を選び、確認画面で［**OK**］を選んでWi-Fi接続を終了します。

カメラからスマートフォンに画像を送信する

Bluetooth接続中（Androidのみ）またはWi-Fi接続中に、カメラを操作してスマートフォンへ画像を送信することができます。送信方法は、2通りあります。

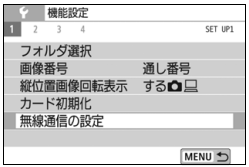
（1）カメラのメニューで［**スマートフォンへ画像を送信**］を選ぶ

（2）再生時のクイック設定画面から送信する（p.W-21）

（1）［スマートフォンへ画像を送信］を選ぶ

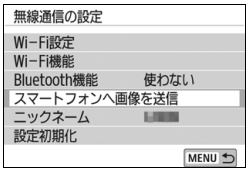
カメラのメニューで［**スマートフォンへ画像を送信**］を選んで送信します。

1 カメラとスマートフォンをBluetooth接続（Androidのみ）またはWi-Fi接続する（p.W-15）



2 ［無線通信の設定］を選ぶ

● ［1］タブの［**無線通信の設定**］を選んで〈(SET)〉を押します。



3 ［スマートフォンへ画像を送信］を選ぶ

➡ Bluetooth接続中にこの操作を行ったときは、メッセージが表示され、Wi-Fi接続が開始されます。

4 送信する画像を選ぶ

➡ 画像を選んで送信します。送信方法はW-22ページを参照してください。

(2) 再生時のクイック設定

再生時のクイック設定画面から画像を送信します。

1 **カメラとスマートフォンをBluetooth接続（Androidのみ）またはWi-Fi接続する**（p.W-15）

2 **画像を再生する**

● 〈▶〉ボタンを押して画像を再生します。

3 **〈Q〉ボタンを押す**

➡ クイック設定画面が表示されます。

4 **［📱］を選ぶ**

➡ Bluetooth接続中にこの操作を行ったときは、メッセージが表示され、Wi-Fi接続が開始されます。

5 **送信する画像を選ぶ**

➡ 画像を選んで送信します。送信方法はW-22ページを参照してください。

1枚ずつ送信する場合

画像を選んで1枚ずつ送信します。

1 送信する画像を選ぶ

- 十字キーの〈◀〉〈▶〉を押して送信する画像を選んで〈(SET)〉を押します。
- 〈▦·🔍〉ボタンを押すと、インデックス表示にして選ぶことができます。

2 [この画像を送信] を選ぶ

- [**画像サイズ縮小**] を選んで〈(SET)〉を押すと、送信する画像サイズを選択できます。
- [**この画像を送信**] を選んで〈(SET)〉を押すと、表示している画像が送信されます。
- ➡ 送信が終了すると手順1の画面に戻ります。
- 続けて送信するときは、手順1、2を繰り返します。

2

NFC 対応スマートフォンと Wi-Fi 接続する

ここではNFC対応スマートフォンとWi-Fi接続する方法を説明します。

スマートフォンとWi-Fi接続して、以下のことができます。

- スマートフォンでカメラ内の画像を閲覧したり、閲覧した画像をスマートフォンに保存する
- スマートフォンでカメラを操作して撮影したり、カメラの設定を変更する
- カメラからスマートフォンに画像を送信する

- あらかじめ、スマートフォンにCamera Connectをインストールしてから接続設定を行ってください（p.W-8）。
- Bluetooth対応のスマートフォンとWi-Fi接続するときは、『Bluetooth対応スマートフォンとWi-Fi接続する』（p.W-9）を参照してください。
- BluetoothやNFCに対応していないスマートフォンとWi-Fi接続するときは、『〈(ψ)〉ボタンでスマートフォンとWi-Fi接続する』（p.W-31）を参照してください。

NFC対応スマートフォンとのWi-Fi接続について

NFC対応のスマートフォンは、このカメラとタッチしてWi-Fi接続することができます。

- Nマークが付いているスマートフォンはNFCに対応しています。
- 一部のおサイフケータイ対応のスマートフォンはNFCに対応しています。
- Nマークが付いていなくてもNFCに対応していることがあります。その場合は、スマートフォンの使用説明書で、NFCアンテナの位置を確認しておいてください。
- スマートフォンのNFC設定については、スマートフォンの使用説明書を参照してください。
- お使いのスマートフォンがNFCに対応しているか分からないときは、スマートフォンのメーカーへお問い合わせください。

NFC対応のスマートフォンでも、NFC機能でWi-Fi接続できないことがあります。その場合は、『〈(ψ)〉ボタンでスマートフォンとWi-Fi接続する』（p.W-31）の方法でWi-Fi接続してください。

Wi-Fi接続する

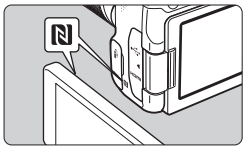
NFC対応スマートフォンとのWi-Fi接続は、Camera Connectの『かんたん接続ガイド』に従って操作するか、以下の手順で行います。

①カメラとスマートフォンの電源を入れる
②カメラとスマートフォンのNFC機能を有効にする
③カメラとスマートフォンが接するようにタッチする

- カメラのNFC設定についてはW-6ページを参照してください。
- スマートフォンのWi-Fi設定やNFC設定、NFCのアンテナの位置については、スマートフォンの使用説明書を参照してください。

---

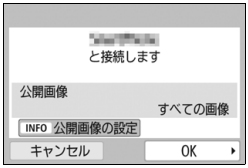
1 **カメラとスマートフォンのNFC機能を有効にする**（p.W-6）



2 **カメラにスマートフォンをタッチする**

- スマートフォンにCamera Connectのダウンロードサイトが表示されたときは、Camera Connectをインストールしてください（p.W-8）。
- カメラで画像を再生中のときは、〈▶〉ボタンを押して再生を終了してください。
- カメラとスマートフォンの N マーク同士が接するようにタッチします。
- **カメラの液晶モニターに接続中を表すメッセージが表示されたら**、カメラからスマートフォンを離してください。

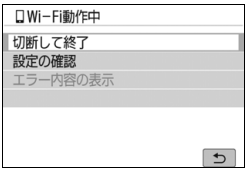
➡ スマートフォンのCamera Connectが起動し、接続を開始します。



3 Wi-Fi接続を確立する

➡ 接続すると、カメラの液晶モニターに左の画面が表示されます。なお、同じスマートフォンとNFC接続するときは、次回以降はこの画面は表示されません。

● [OK] を選んで〈(SET)〉を押すと、メッセージが表示されたあとに、[Wi-Fi動作中] 画面が表示されます。



[Wi-Fi動作中] 画面について

[切断して終了]

● Wi-Fi接続を終了します。

[設定の確認]

● 設定の内容が確認できます。

[エラー内容の表示]

● Wi-Fi接続でエラーが発生したときに、エラー内容を確認できます。

〈MENU〉ボタンを押すと、メニューに切り換わります。

➡ スマートフォンに、Camera Connectのメイン画面が表示されます。

これでスマートフォンとのWi-Fi接続は完了です。

➡ Camera Connectを使用してカメラを操作します。W-18ページを参照してください。

● Wi-Fi接続を終了する方法は、『Wi-Fi接続を終了する』を参照してください(p.W-19)。

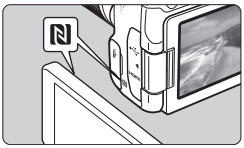
カメラからスマートフォンに画像を送信する ■

NFC対応スマートフォンでは、Bluetooth接続やWi-Fi接続していない状態でも、画像の再生中にカメラにタッチすることで、自動的にWi-Fi接続してカメラからスマートフォンに画像を送ることができます。

- あらかじめ［**Wi-Fi設定**］画面で［**Wi-Fi**］を［**使う**］に設定して、［**NFC接続**］も［**する**］に設定しておいてください（p.W-6）。
- スマートフォンのWi-Fi設定やNFC設定、NFCのアンテナの位置については、スマートフォンの使用説明書を参照してください。

1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押して画像を再生します。



2 カメラにスマートフォンをタッチする

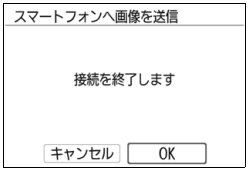
- カメラとスマートフォンの N マーク同士が接するようにタッチします。
- カメラの液晶モニターに接続中を表すメッセージが表示されたら、スマートフォンを離してください。

3 送信する画像を選ぶ

- 画像を選んで送信します。送信方法はW-22ページを参照してください。

4 画像の送信を終了する

● 画像の送信画面で〈MENU〉ボタンを押します。



● 左の画面で［OK］を選んで〈(SET)〉を押して、画像の送信とWi-Fi接続を終了します。

3

〈(ᵞ)〉ボタンでスマートフォンとWi-Fi接続する

ここでは〈(ᵞ)〉ボタンを使ってスマートフォンとWi-Fi接続する方法を説明します。

スマートフォンとWi-Fi接続して、以下のことができます。

- スマートフォンでカメラ内の画像を閲覧したり、閲覧した画像をスマートフォンに保存する
- スマートフォンでカメラを操作して撮影したり、カメラの設定を変更する
- カメラからスマートフォンに画像を送信する

● あらかじめ、スマートフォンにCamera Connectをインストールしてから接続設定を行ってください（p.W-8）。
● Bluetooth対応のスマートフォンとWi-Fi接続するときは、『Bluetooth対応スマートフォンとWi-Fi接続する』（p.W-9）を参照してください。
● NFC対応のスマートフォンとWi-Fi接続するときは、『NFC対応スマートフォンとWi-Fi接続する』（p.W-23）を参照してください。

Wi-Fi接続する

カメラとスマートフォンのWi-Fi接続は、Camera Connectの『かんたん接続ガイド』に従って操作するか、以下の手順で行います。

あらかじめ［**Wi-Fi設定**］画面で［**Wi-Fi**］を［**使う**］に設定しておいてください（p.W-6）。

カメラ側の操作-1

1 **〈(ᵞ)〉ボタンを押す**

2 **［📱］（スマートフォンと通信）を選ぶ**

- 履歴（p.W-37）が表示されたときは、〈◄〉〈►〉で画面を切り換えます。
- ［**無線通信の設定**］画面が表示されたときは、Wi-Fi設定を行います（p.W-6）。

3 **［接続先の機器の登録］を選ぶ**

4 [表示しない] を選ぶ

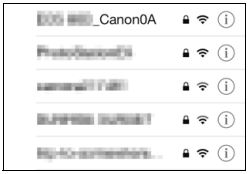
- Camera Connectをインストール済みのときは［**表示しない**］を選んで〈㊾〉を押します。
- Camera Connectがインストールされていないときは、左の画面で［**Android**］または［**iOS**］を選んで表示されるQRコードをスマートフォンで読み取り、Google PlayまたはApp Storeにアクセスして Camera Connect をインストールします。

5 SSIDとパスワードを確認する

- カメラの液晶モニターに表示されているSSID（ネットワーク名）とパスワードを確認します。

スマートフォン側の操作

スマートフォンの画面例

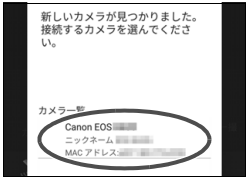


6 スマートフォンを操作してWi-Fi接続する

- スマートフォンのWi-Fi機能をONにして、手順5で確認したSSID（ネットワーク名）を選びます。
- パスワード欄には、手順5で確認したパスワードを入力します。

7 Camera Connectを起動する

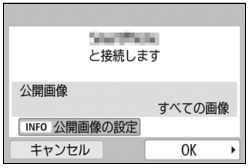
- カメラの液晶モニターに［**接続待機中**］の画面が表示されたら、スマートフォンのCamera Connectを起動します。



8 Wi-Fi接続するカメラを選ぶ

- Camera Connectの［**カメラ一覧**］から、Wi-Fi接続するカメラを選んでタッチします。

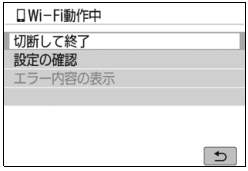
カメラ側の操作-2



9 Wi-Fi接続を確立する

➡ 接続すると、カメラの液晶モニターに左の画面が表示されます。なお、同じスマートフォンとNFC接続するときは、次回以降はこの画面は表示されません。

● [OK] を選んで〈(SET)〉を押すと、メッセージが表示されたあとに、[Wi-Fi動作中] 画面が表示されます。



[Wi-Fi動作中] 画面について

[切断して終了]

● Wi-Fi接続を終了します。

[設定の確認]

● 設定の内容が確認できます。

[エラー内容の表示]

● Wi-Fi接続でエラーが発生したときに、エラー内容を確認できます。

〈MENU〉ボタンを押すと、メニューに切り換わります。

➡ スマートフォンに、Camera Connectのメイン画面が表示されます。

これでスマートフォンとのWi-Fi接続は完了です。

➡ Camera Connectを使用してカメラを操作します。W-18ページを参照してください。

- Wi-Fi 接続を終了する方法は、『Wi-Fi 接続を終了する』を参照してください（p.W-19）。
- 2回目以降のWi-Fi接続については、『2回目以降のWi-Fi接続』を参照してください（p.W-37）。

Wi-Fi接続中に、カメラのメニュー（[**スマートフォンへ画像を送信**]）、または再生時のクイック設定画面からスマートフォンに画像を送信することができます。詳しくはW-20ページを参照してください。

2回目以降のWi-Fi接続

一度Wi-Fi接続して接続設定が登録された機器やサービスに、再度Wi-Fi接続します。

1 〈((ı))〉ボタンを押す

2 項目を選ぶ

- 表示された履歴から、Wi-Fi 接続する項目を選びます。表示されていないときは〈◄〉〈►〉を押して画面を切り換えます。
- 項目を選んだら〈SET〉を押します。

3 接続先の機器を操作する

スマートフォンの場合

- スマートフォンのWi-Fi機能をONにして、Camera Connectを起動します。
- スマートフォンの接続先が変更されているときは、カメラに Wi-Fi 接続するように設定し直します。

無線通信機能について

■ 無線通信機能が使える国や地域について

無線通信機能の使用は、国や地域ごとの法令等により規制されていることがあるため、違反すると罰せられることがあります。そのため、無線通信機能が使用できる国や地域については、キヤノンのWebサイトで確認してください。

なお、それ以外の国や地域で無線通信機能を使用した際のトラブル等については、弊社は一切責任を負いかねます。

■ モデルナンバー

EOS Kiss X9i：DS126661

（無線モジュールモデル：ES200, Bluetoothモジュールモデル：WM500）

- 次の事項を行うと、法律で罰せられることがあります。「本製品を分解、改造すること」、「本製品上の証明ラベルをはがすこと」。
- 医療用の装置や、電子機器の近くで本製品を使用しないでください。医療用の装置や、電子機器の動作に影響を及ぼす恐れがあります。
- EOS Kiss X9iには、電波法に基づく認証を受けた無線装置が内蔵されており、証明ラベルは無線設備に添付されています。

■ 電波干渉に関するご注意

この機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）、および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

① この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認して下さい。

② 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、お客様相談センターにご連絡いただき、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談下さい。

③ その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局、あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、お客様相談センターへお問い合わせ下さい。

- 本製品は、他の電波を発する機器から、電波干渉を受ける場合があります。これらの機器からできるだけ遠く離すか、ご利用時間を分けるなどして、電波干渉を避けて使用してください。

この表示は、2.4GHz帯を使用している無線機器であることを意味します。

商標について

- Microsoft、Windowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Macintosh、Mac OSは、米国およびその他の国で登録されているApple Inc.の商標です。
- Wi-Fi CERTIFIEDロゴおよびWi-Fi Protected Setupマークは Wi-Fi Allianceの商標です。
- カメラの設定画面と本書内で使用されている「WPS」は、Wi-Fi Protected Setupを意味しています。
- UPnPは、UPnP Implementers Corporationの商標です。
- Bluetooth®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、キヤノン株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。
- N-Markは米国およびその他の国におけるNFC Forum, Inc.の商標または登録商標です。
- おサイフケータイは株式会社NTTドコモの登録商標です。
- その他の社名、商品名などは、各社の商標または登録商標です。

索 引

英数字

Android W-8
Bluetooth W-9, W-10
　接続 W-11
Camera Connect W-8, W-18
iOS W-8
NFC W-23, W-24, W-25
　画像を送信 W-28
SSID W-16, W-33
Wi-Fi設定 W-6
Wi-Fiボタン W-31, W-32

か

画像閲覧 W-18
画像を送信 W-20, W-28
クイック設定 W-21
この画像を送信 W-22

さ

再接続 W-37
スマートフォンと通信 W-9, W-23, W-31
スマートフォンへ
画像を送信 W-20, W-28

な

ニックネーム W-7
ネットワーク名　→SSID

は

パスワード W-16, W-33
ペアリング W-12

ら

リモート操作 W-18

Canon

キヤノン株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
〒 108-8011　東京都港区港南 2-16-6

製品情報や取り扱い方法に関するご相談窓口

製品に関する情報や、よくあるお問い合わせなどのサポート情報を掲載しています。
インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

EOSホームページ：canon.jp/eos
EOS・サポートナビ：canon.jp/eos-navi

電話でのお問い合わせは、以下へお願いします。

お客様相談センター（全国共通番号）
050-555-90002

受付時間：9：00 ～ 18：00
（1月 1 日～ 1 月 3 日は休ませていただきます）

※ おかけ間違いのないようにご注意ください。
※ 上記番号をご利用いただけない方は、043-211-9556 をご利用ください。
※ IP 電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによりつながらない場合があります。
※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

修理受付窓口

別紙の修理お問合せ専用窓口にお問い合わせください。

本書の記載内容は 2016 年 12 月現在のものです。それ以降に発売された製品との組み合わせにつきましては、上記のお客様相談センターにお問い合わせください。なお、最新の使用説明書については、キヤノンのホームページをご覧ください。

Li-ion リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。

CPB-J501-000
© CANON INC. 2016